■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

ハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ハンディカムホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
ハンディカムの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

メモリースティック対応表
http://www.sony.co.jp/mstaiou
使用可能な"メモリースティック"を確認することができます。

電話で問い合わせる（ソニーの相談窓口）

●使い方相談窓口
フリーダイヤル 0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2511
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間:月～金 9:00 ～ 18:00　土･日･祝日 9:00 ～ 17:00

●修理相談窓口
フリーダイヤル 0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間:月～金 9:00 ～ 20:00　土･日･祝日 9:00 ～ 17:00

ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX（共通）:0120-333-389

■ カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心、便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/contact/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　http://www.sony.co.jp/

この説明書は古紙70%以上の再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

SONY
HANDYCAM
HDR-FX7

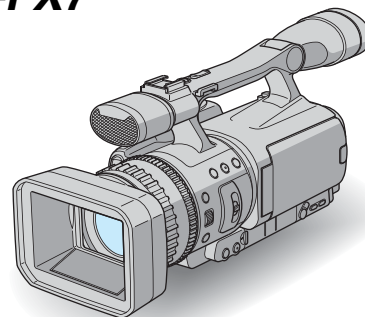
2-887-514-**07** (1)

SONY

デジタルHDビデオカメラレコーダー

HANDYCAM

取扱説明書

HDR-FX7

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

→111〜114ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源コードに傷がないか、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラや充電器などの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら
煙が出たら

➡

❶ **電源を切る**
❷ **電池をはずす**
❸ **ソニーの相談窓口に連絡する**

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

「安全のために」の文中の「電池」とは、バッテリーパックも含みます。

使用前に必ずお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

本機で使えるカセットについて

Mini DV マーク付きミニDVカセットが使えます。カセットメモリーには非対応です（詳しくは100ページ）。

本機で使える“メモリースティック”について

本機では、MEMORY STICK DUO（“メモリースティック　デュオ”）、

MEMORY STICK PRO DUO（“メモリースティック　PRO（プロ）　デュオ”）マーク付きの“メモリースティック　デュオ”が使えます（詳しくは102ページ）。

“メモリースティック　デュオ”
（本機で使用するサイズ）

“メモリースティック”
（本機では使用できません）

ご注意

- “メモリースティック　デュオ”以外のメモリーカードは使用できません。
- “メモリースティック　PRO”、“メモリースティック　PRO　デュオ”は“メモリースティック　PRO”対応機器でのみ使用可能です。
- “メモリースティック　デュオ”、メモリースティック　デュオアダプターにラベルなどを貼らないでください。

“メモリースティック　デュオ”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合

必ず“メモリースティック　デュオ”をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。

メモリースティック　デュオ　アダプター

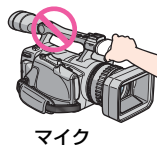
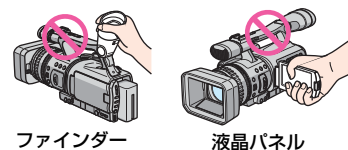
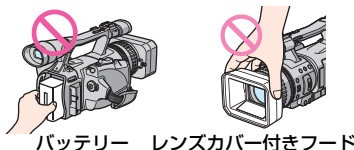
故障や破損の原因となるため、特にご注意ください。

- 次の部分をつかんで持たないでください。

バッテリー　レンズカバー付きフード

ファインダー

液晶パネル

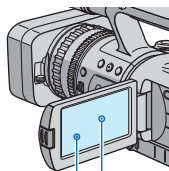
マイク

ご注意

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「取り扱い上のご注意とお手入れ」もご覧ください（106ページ）。
- HDMIケーブル、D端子コンポーネントビデオケーブル、USBケーブル、i.LINKケーブルなどで接続する場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損

次のページへつづく→

することがあります。また、本機の故障の原因となります。

メニュー項目、液晶画面、ファインダーおよびレンズについてのご注意

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その撮影/再生条件では使えません（同時に選べません）。
- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

ファインダー、レンズ、および液晶画面を絶対に太陽や強い光源に向けたままにしない

- 特にファインダー、レンズを太陽や強い光源に向けたままにすると、集光により内部部品の破損の原因となります。使用しないときには、太陽や強い光源に向かないように置き場所を工夫するか、レンズカバー、バッグなどを使用して保護してください。

本機やバッテリーの温度に関するご注意

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために撮影や再生ができなくなることがあります。この場合は、本機の液晶画面およびファインダーにメッセージが表示されます（96ページ）。

録画/録音に際してのご注意

- 事前にためし撮りをして、正常な録画/録音を確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合、記録や再生がされなかった場合、または性能の限界により画像や音声が乱れた場合、画像や音声などの記録内容及び、撮影機会の損失に対する保証についてはご容赦ください。
- あなたがビデオで録画/録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

他機での再生に際してのご注意

HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。

他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

本書で使うマークについて

HDV1080i　HDV規格だけで使える機能です。
DV　DV規格だけで使える機能です。
i.LINK　i.LINK接続時に使える機能です。
USB　USB接続時に使える機能です。

本書について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。
- 記録メディアやアクセサリーの仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。

MTF=Modulation Transfer Functionの略。

コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

目次

ハイビジョン映像を楽しもう

準備する

撮る/見る

メニューで設定を変更する

ダビングや編集をする

次のページへつづく➡

パソコンとつなぐ

困ったときは

その他

安全のために

各部のなまえ・索引

HDV規格で撮ろう！

とってもきれい

HDV規格では従来のテレビに比べて有効走査線数は約２倍以上、全体の画素数は約４倍以上となり、画質が飛躍的に向上しました。
本機はHDV規格に対応し、高精細で臨場感あふれるハイビジョン映像を撮影することができます。

HDV規格とは？

HDV規格とは、現在普及しているDV規格のカセットテープを使ってハイビジョンの映像を撮影・再生するための新しい映像規格です。

- **本機では、「HDV規格」の中で、有効走査線数1,080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。**記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

有効走査線数1,080本

- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080i方式のことをHDVと書きます。

なぜHDV規格で撮るの？

映像の世界がデジタル方式へと移行していくなかで、大切な場面をHDV規格で撮影しておくことで後々まで高画質な映像をお楽しみいただくことができます。
従来のワイドテレビや4:3テレビでも本機のダウンコンバート機能によりHDV規格の画像をSD（標準）画質で再生できるので、ハイビジョンテレビをお持ちでないかたも将来に備えてHDV規格で撮影することをおすすめします。

- ダウンコンバートとは、HDV1080i方式非対応のテレビやビデオ機器と本機をつないだときに、HDV規格の映像をDV規格に変換して再生、編集を可能にする機能のことです。画質はSD（標準）画質になります。

本機の特長

本機は以下の特長を備えたHDV1080i方式デジタルHDビデオカメラレコーダーです。
旅先の美しい風景などを、ハイビジョン画質で記録できます。

1 「3 クリアビッド CMOS センサーシステム」を搭載
「3 クリアビッド CMOS センサーシステム」を搭載。ソニーがハイビジョン用に開発した「クリアビッドCMOSセンサー」を3枚用いて優れた分光特性と高解像度を実現しました。感度・色再現性に優れたデジタルハイビジョン映像を表現できます。

2 光学 20 倍「カールツァイス バリオゾナーT＊ レンズ」を搭載
光学20倍「カールツァイス バリオゾナーT＊ レンズ」搭載により、離れた被写体もハイビジョン画質で高倍率ズーム撮影できます。

3 内蔵高性能マイクで臨場感たっぷりの音声を記録
本体内蔵の高性能ステレオマイクにより、臨場感のある音声が記録できます。

4 細かなマニュアル設定でより本格的に
豊富なマニュアル設定機能搭載により、思い通りの設定でハイビジョン映像を撮影できます。

－「ズームリング」、「フォーカスリング」、「明るさ／アイリスダイヤル」で、思い通りのマニュアル調節ができます。

－「シャッタースピード」、「ホワイトバランス」、「ゲイン」を細かくマニュアル設定できます。

5 いろいろな機器とつないで楽しめます
本体左側面には、"メモリースティック　デュオ"スロット、USB端子、HDMI出力端子、ヘッドホン端子を、右側面にはi.LINK（HDV/DV）端子、コンポーネント（D端子）、A/V端子、DC入力端子を搭載。豊富な外部接続環境を備えています。

撮影のための便利な機能

静止画デュアル記録(26ページ)

動画撮影中に、1.2Mの静止画を"メモリースティック デュオ"に撮影できます。

なめらかスロー録画(55ページ)

動きのある被写体を、なめらかなスローモーション映像として撮影できます。

カメラプロファイルを保存(68ページ)

明るさや色合いなどの設定情報を本体に2個保存できます。保存した設定情報を使って、適切な撮影設定をすばやく再現できます。

明るさ/アイリスダイヤル(31ページ)

明るさ/アイリスダイヤルを使って明るさを調節できます。明るさ/アイリスダイヤルで調節する項目は、[カメラ明るさ]、[アイリス]、[AEシフト]から選べます。

HDV規格で撮った画像を楽しもう！

ハイビジョンテレビで見る（47ページ）

HDV規格で撮影した画像を高精細で鮮やかなHD（ハイビジョン）画質で再生できます。
• HD1080i方式（i.LINK）対応のテレビについては48ページをご覧ください。

ワイドテレビ/4:3テレビで見る（49ページ）

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、従来のテレビで見ることができます。画質はSD（標準）になります。

他のビデオ機器にダビングする（71ページ）

■HDV1080i方式対応機器につなぐ

i.LINKケーブルでつないでHD（ハイビジョン）画質でダビングできます。

■HDV1080i方式対応以外の機器につなぐ

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、SD（標準）画質でダビングできます。

パソコンにつなぐ（80ページ）

■"メモリースティック　デュオ"の静止画をパソコンに取り込む

■テープの動画をパソコンに取り込む

動画をパソコンに取り込んだり、取り込んだ画像をDVDに保存したりできます。パソコンに取り込む画像規格（HDV規格またはDV規格）によって、パソコンに必要な装備が異なります。詳しくは、83ページと下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

準備1:付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確認してください。万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

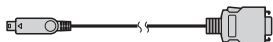
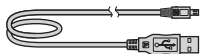
(　)内は個数。

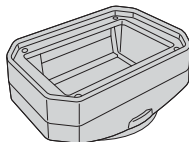
- ビデオカセット、"メモリースティック　デュオ"、リチャージャブルバッテリーパック、ACアダプター/チャージャーは別売です。本機で使えるカセットテープと"メモリースティック　デュオ"については100ページ、102ページをご覧ください。

ワイヤレスリモコン(1)(44、119ページ)

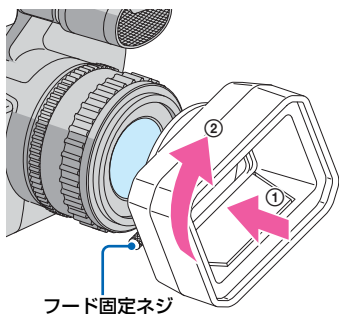
ボタン型リチウム電池があらかじめ取り付けられています。

AV接続ケーブル(1)(46、71ページ)

D端子コンポーネントビデオケーブル(1)(46ページ)

USBケーブル(1)(80ページ)

大型アイカップ(1)(21ページ)

レンズカバー付きフード(1)(14ページ)

取扱説明書 <本書>(1)

保証書(1)

準備2:レンズカバー付きフードを取り付ける

本体とフードの印を合わせて、矢印の方向に回す。次にフード固定ネジをしめる。

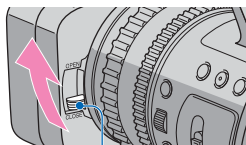
レンズカバー付きフードを取り外すには

フード固定ネジをゆるめ、上図の矢印と反対方向に回す。

ちょっと一言

- 直径62ミリの偏光フィルターや保護フィルターを取り付け、取り外し、調整をするときは、レンズカバー付きフードを取りはずしてください。

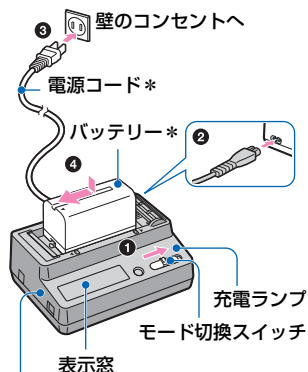
レンズカバーを開閉するには

開閉するにはレンズカバーレバーを上下に動かす。

レンズカバーを開けるときはレンズカバーレバーを「OPEN」に、閉じるときは「CLOSE」に動かす。

準備 3:バッテリーを充電する

別売りのアクセサリーキットの取扱説明書もあわせてご覧ください。
専用の"インフォリチウム"バッテリー(Lシリーズ)(104ページ)をACアダプター/チャージャーに取り付けて充電します。

ご注意

- "インフォリチウム"バッテリー(Lシリーズ)(104ページ)以外のバッテリーは使えません。
- ACアダプター/チャージャーのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプター/チャージャーは手近なコンセントを使用してください。充電中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプター/チャージャーを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。

＊別売りのACCKIT-D10に付属

1 **モード切換スイッチを「充電」にする。**

2 **電源コードをACアダプター/チャージャーにつなぐ。**

3 **コンセントにつなぐ。**

4 **バッテリーを押しながら、矢印の方向にずらして取り付ける。**

充電ランプが点灯し、充電が始まります。

充電が終わると

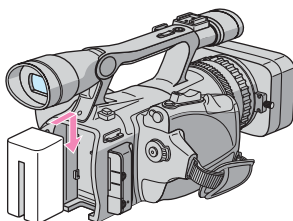
表示窓のバッテリーマークがすべて点灯します(「 」実用充電)。
充電ランプが消え、バッテリーマーク「FULL」が表示されるまで充電を続けると、若干長く使えます(満充電)。
充電が終わったら、バッテリーをACアダプター/チャージャーから取り外してください。

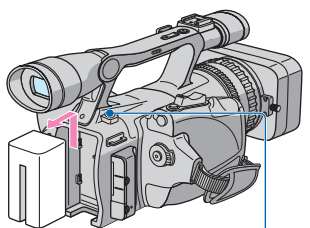
ちょっと一言

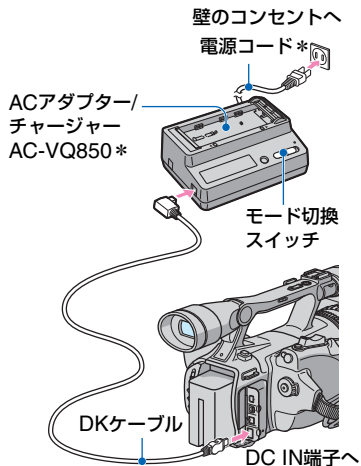
- バッテリーインフォでバッテリー残量を確認できます(43ページ)。

本機にバッテリーを取り付けるには

バッテリーを押しながら、下にずらして取り付ける。

次のページへつづく➡

バッテリーを取り外すには

電源スイッチを「切(充電)」にする。バッテリー取り外しボタンを押しながら、バッテリーを取り外す。

本体内充電するには

本機に取り付けたバッテリーを充電できます。

＊別売りのACCKIT-D10に付属

① バッテリーを本機に取り付ける。

② DKケーブルを本機のDC IN端子につなぐ。

③ DKケーブルをACアダプター/チャージャーにつなぐ。

④ 電源コードをACアダプター/チャージャーにつなぐ。

⑤ ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にする。

ご注意

- ACアダプター/チャージャーのモード切替スイッチが「充電」側になっていると電源は供給されません。

⑥ 本機の電源スイッチを「切(充電)」にする。
充電ランプが点灯し、充電が始まります。充電が終わると、充電ランプが消えます(満充電)。
DKケーブルを本機のDC IN端子から抜いてください。

保管するときは

長い間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管してください。(保管について詳しくは104ページをご覧ください。)

コンセントにつないで使うには

バッテリーが切れることを心配しないで使えます。また、バッテリーを取り付けたまま使っても、バッテリー自身は消耗しません。

① ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にする。

② 「本体内充電するには」と同じ方法で接続する(16ページ)。

③ 電源コードをコンセントにつなぐ。

ご注意

- バッテリーで使用するときは、DC IN端子からDKケーブルを抜いてください。電源コードをコンセントから抜いても、DC IN端子にDKケーブルがつながっていると、バッテリーから電源が供給されません。

充電時間

使い切った状態からのおよその時間(分)。

バッテリー型名	満充電時間
NP-F570	260
NP-F770	370
NP-F970	485

撮影可能時間

満充電からのおよその時間(分)。

HDV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-F570	155	90
	160	95
	155	90
NP-F770	320	185
	335	195
	320	185
NP-F970	480	290
	500	300
	480	290

DV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-F570	160	100
	165	105
	160	100
NP-F770	335	200
	350	210
	335	200
NP-F970	500	300
	520	315
	500	300

上段:液晶画面バックライトが「入」のとき

中段:液晶画面バックライトが「切」のとき

下段:液晶画面を閉じてファインダーを使用したとき

* 実撮影時とは、録画スタンバイ、電源スイッチの切り換え、ズームなどを繰り返したときの時間です。

再生可能時間

満充電からのおよその時間(分)。

HDV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-F570	245	245
NP-F770	510	510
NP-F970	760	760

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-F570	270	270
NP-F770	550	550
NP-F970	830	830

* 液晶画面バックライトが「入」のとき

バッテリーについて

- バッテリーの交換は、電源スイッチを「切(充電)」にしてから行ってください。
- 次のとき、充電中の充電ランプが点滅したり、バッテリーインフォ(43ページ)が正しく表示されないことがあります。
  – バッテリーを正しく取り付けていないとき
  – バッテリーが故障しているとき
  – バッテリーが劣化しているとき(バッテリーインフォ表示のみ)
  – バッテリーの温度が低いとき
  バッテリーをはずして暖かいところに置いてください。
  – バッテリーの温度が高いとき
  バッテリーをはずして涼しいところに置いてください。
- 電源コードをコンセントから抜いても、ACアダプターが本機のDC IN端子につながれている限り、バッテリーからは電源供給されません。
- ビデオライト(別売り)を取り付けたときは、バッテリーNP-F970のご使用をおすすめします。

充電/撮影/再生時間について

- 25℃（10℃～30℃が推奨）で使用したときの時間です。
- 低温の場所で使うと、撮影/再生時間はそれぞれ短くなります。
- 使用状態によって、撮影/再生可能時間が短くなります。

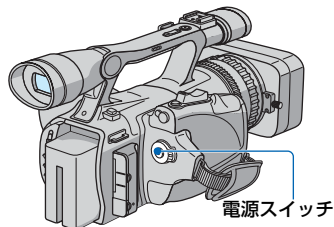
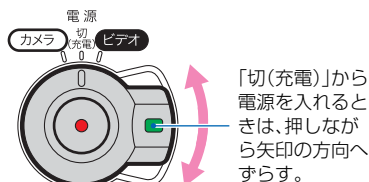
ACアダプターについて

- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

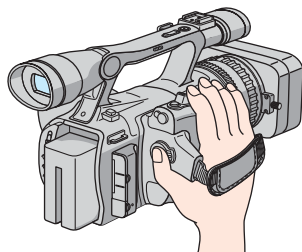
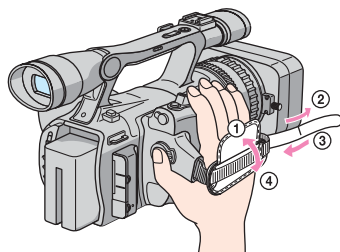
準備 4:電源を入れて正しく持つ

撮影や再生時は、電源スイッチをそれぞれの電源モードに切り換えます。
初めて電源を入れると自動的に[日時あわせ]画面になります(22ページ)。

1 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを切り換える。

「切(充電)」から電源を入れるときは、押しながら矢印の方向へずらす。

「カメラ」:撮影時
「ビデオ」:再生や編集時

ご注意
- [日時あわせ](22ページ)を行った後で本機の電源を入れると、液晶画面に現在の日時が数秒間表示されます。

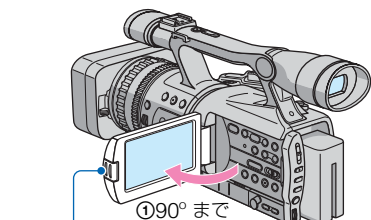
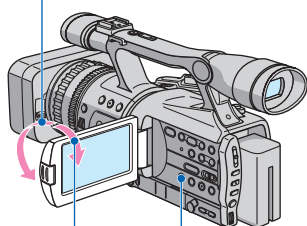
2 本機を正しく構える。

3 ベルトをしっかりと締める。

電源を切るには

電源スイッチをずらして、「切(充電)」にする。

ご注意
- お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください(97ページ)。

準備 5:液晶画面とファインダーを調節する

液晶画面を見やすく調節する

オープンボタンを押しながら液晶画面を90°まで開き(①)、見やすい角度に調節する(②)。

ちょっと一言

- 液晶画面を①の状態からレンズ側に180°回転させると、外側に向けて本体に収められます。再生時に便利です。
- 液晶画面を閉じるときは、液晶画面を①の状態にしてから、本体に向けて閉じます。

液晶画面バックライトを消してバッテリーを長持ちさせるには

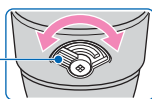
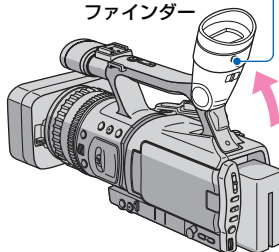
画面表示/バッテリーインフォボタンを OFF が表示されるまで数秒間押したままにする。明るい場所で使うときや、バッテリーを長持ちさせるときに効果的です。録画される画像には影響ありません。

解除するにはもう1度 OFF が消えるまで押したままにする。

ちょっと一言

- 液晶画面の明るさは、[パネル明るさ](62ページ)で調節できます。

ファインダーを見やすく調節する

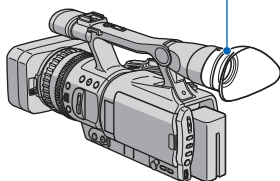
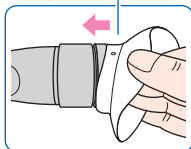
バッテリー切れが心配なときや液晶画面で画像を見づらいときなどは、液晶画面を閉じて、ファインダーで画像を見ることもできます。

ちょっと一言

- ファインダーのバックライトの明るさは、メニューの[VFバックライト]で設定できます(63ページ)。

ファインダーの画像が見えにくいときは

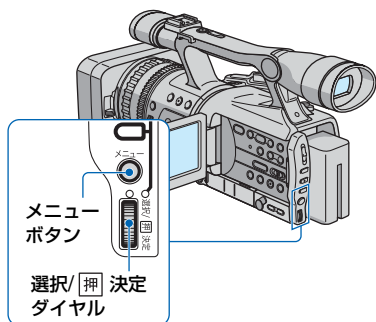
周囲が明るすぎるなど、ファインダーの画像が見えにくいときは、付属の大型アイカップをお使いください。大型アイカップを少し伸ばし、本体に装着されているアイカップの溝に合わせて大型アイカップを取り付けます。大型アイカップは左右のどちらの向きでも取り付けることができます。

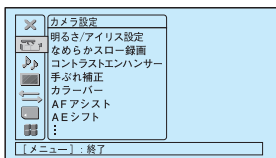
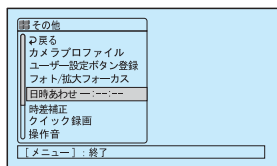
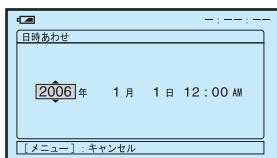
ご注意

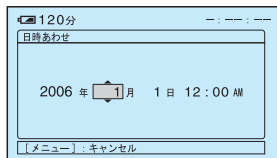
- 本体にあらかじめ装着されているアイカップは取り外さないでください。

準備 6：日付時刻を合わせる

初めて電源を入れたときは日付、時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れたり、電源スイッチを切り換えるたびに[日時あわせ]画面が表示されます。

ちょっと一言

- **3か月**近く使わないでおくと内蔵の充電式電池が放電して、日付、時刻の設定が解除されます。充電式電池を充電してから設定し直してください（107ページ）。

初めて時計を合わせるときは、手順**4**から操作してください。

1 メニューボタンを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルを回して (その他)メニューを選び、押して決定する。

3 選択/押 決定ダイヤルを回して[日時あわせ]を選び、押して決定する。

4 選択/押 決定ダイヤルを回して[年]を選び、押して決定する。

2079年まで設定できます。

5 同様に、[月]、[日]、時、分を合わせ、選択/押 決定ダイヤルを押して決定する。

時計が動き始めます。

真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

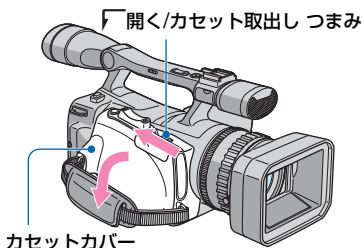
ちょっと一言

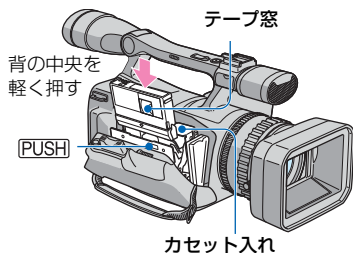
- 日付時刻は撮影時には表示されません。自動的にテープに記録され、再生時に表示させることができます（[データコード]63ページ）。

準備7：カセットや"メモリースティック　デュオ"を入れる

カセットを入れる

Mini DV マーク付きミニDVカセットのみ使えます（100ページ）。

1 開く/カセット取出し つまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。

カセット入れが自動的に出て開きます。

2 テープ窓を外側にして、カセットを入れ、PUSH マークを押す。

カセット入れが自動的に収納されます。

ご注意

- **カセット入れが引き込まれているときに DO NOT PUSH の刻印部分を押さないでください。無理に押し込むと故障の原因になります。**

3 カセットカバーを手で閉める。

ちょっと一言

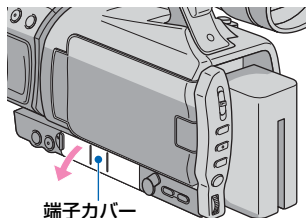
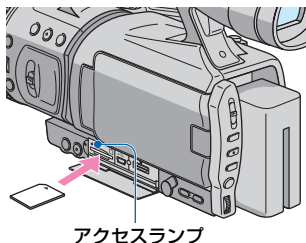
- ［DV録画モード］によって、録画可能時間は異なります（65ページ）。DV

カセットを取り出すには

手順**1**と同じ操作でカセットカバーを開けて、カセットを取り出す。

"メモリースティック　デュオ"を入れる

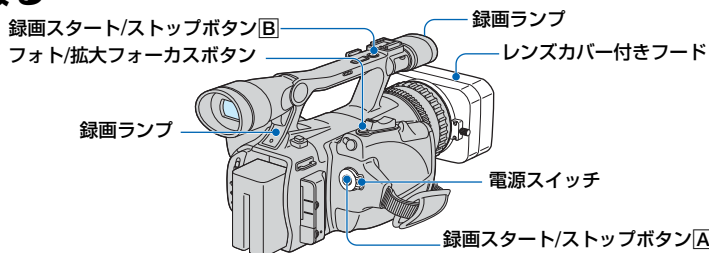
MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUO マーク付き"メモリースティック　デュオ"のみ使えます（102ページ）。

1 端子カバーを開ける。

2 **"メモリースティック　デュオ"を正しい向きに、「カチッ」というまで押し込む。**

ご注意
- 誤った向きで無理に入れると、"メモリースティック　デュオ"や"メモリースティック　デュオ"スロット、画像データが破損することがあります。

"メモリースティック　デュオ"を取り出すには

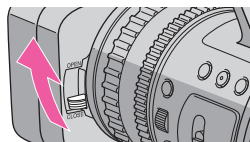
"メモリースティック　デュオ"を軽く1回押して取り出す。

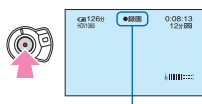
ご注意
- アクセスランプの点灯中や点滅中は、データの読み込みや書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、"メモリースティック　デュオ"やバッテリーを取り外したりしないでください。画像データが壊れることがあります。
- 出し入れ時には"メモリースティック　デュオ"の飛び出しにご注意ください。

撮る

本機は動画をテープに、静止画を"メモリースティック　デュオ"に記録します。下記の手順で動画を撮影します。

ちょっと一言

- 動画はHDV規格とDV規格どちらの録画フォーマットでも記録できます。お買い上げ時はHDV規格で撮影するように設定されています。（[録画フォーマット]、64ページ）。

1 レンズカバー付きフードのシャッターを開ける。

2 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」にする。

3 録画スタート/ストップボタンA（またはB）を押して撮影を始める。

[スタンバイ]→[● 録画]

撮影中は録画ランプが点灯します。

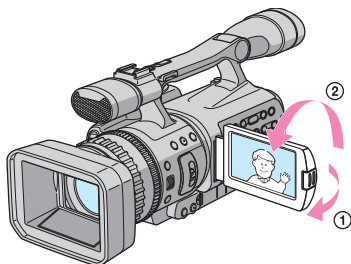
動画撮影を止めるには、録画スタート/ストップボタンをもう1度押す。

次のページへつづく→

ちょっと一言

- HDV規格撮影時は、画像の横縦比は16:9に固定されます。DV規格で録画するときは、4:3に切り替えることもできます（[DVワイド記録]（65ページ））。
- 撮影中の画面表示の切り替えについては43ページをご覧ください。
- 撮影中の画面表示については120ページをご覧ください。
- 録画ランプが点灯しないように設定できます（[録画ランプ]70ページ）。
- "メモリースティック　デュオ"に動画録画はできません。

対面撮影するには

液晶画面を90°まで開き（①）、レンズ側に180°回す（②）。

ちょっと一言

- 液晶画面には、左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

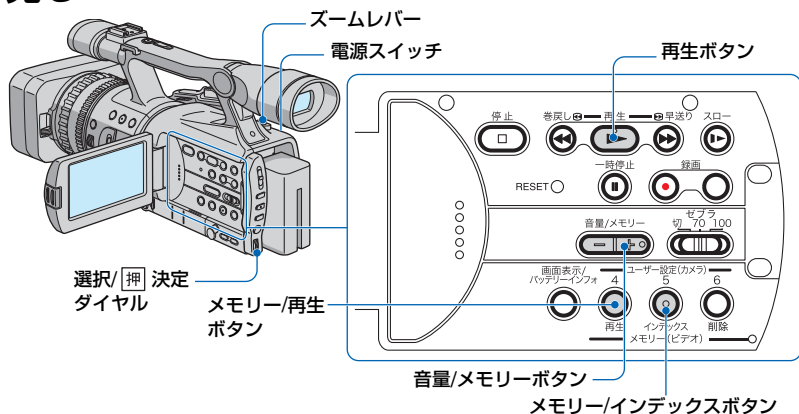
静止画を撮るには

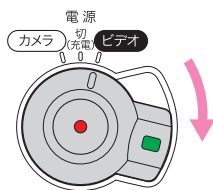
フォト/拡大フォーカスボタンを押す。"メモリースティック　デュオ"に静止画が記録される。

IIIIIIII が消えると記録が完了する。動画撮影中も静止画撮影できます。

ちょっと一言

- 動画撮影していないときは、「カシャ」と音が出ます。
- 静止画の画像サイズは以下のとおりです。
  - －HDV規格/DV規格（16:9）撮影時：1.2M（1,440X810ドット）
  - －DV規格（4:3）撮影時：0.9M（1,080X810ドット）
- [■画質]、撮影可能枚数については66ページをご覧ください。
- 撮影中の画面については120ページをご覧ください。
- フォト/拡大フォーカスボタンを押すと拡大フォーカスするように設定できます（[フォト/拡大フォーカス]（69ページ））。

見る

下記の手順で動画を再生します。

1 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 再生を始める。

◀◀(巻戻し)ボタンを押して、見たい位置まで巻き戻し、▶(再生)ボタンを押す。

- ■:再生停止
- ❚❚:一時停止(▶または❚❚を押すと通常の再生に戻る)
- ▶▶/◀◀:早送り/早戻し
- ❚▶:スロー再生

ご注意

- 一時停止が3分以上続くと、自動的に停止します。
- HDVとDV規格が混在したテープを再生するときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに、一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。

ちょっと一言

- 再生中の画面表示については121ページをご覧ください。
- 再生中の画面表示の切り替えについては43ページをご覧ください。
- 他機でモノラルマイクを接続して撮影したテープを再生するときは、[バイリンガル](60ページ)をご覧ください。

次のページへつづく➡

動画を見ながら場面を探すには

再生中に▶▶/◀◀を押したままにする（ピクチャーサーチ）。早送り中に見るときは▶▶を、巻戻し中は◀◀を押したままにする（高速アクセス）。

ご注意
- HDV規格で記録したテープは、逆方向にピクチャーサーチ/高速アクセスできません。

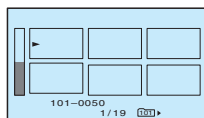
音量を調節するには

音量/メモリーボタンで調節する。

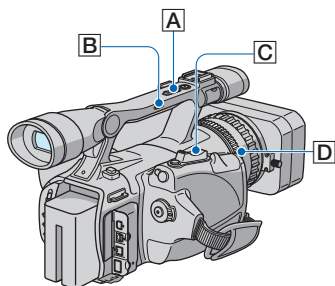
静止画を見るには

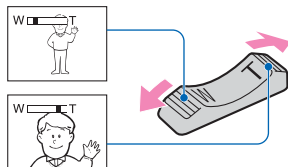
① 電源スイッチを「ビデオ」にする。
② メモリー/ 再生ボタンを押す。
③ 音量/メモリーボタンを押して静止画を選ぶ。
静止画再生をやめるには、もう1度メモリー/再生ボタンを押す。

静止画を一覧表示するには（インデックス表示）

① 電源スイッチを「ビデオ」にする。
② メモリー/インデックスボタンを押す。

③ 音量 / メモリーボタンを押して、画像を選ぶ。
▶ を表示したい画像に合わせてメモリー/再生ボタンを押すと、1枚表示になる。
一覧表示をやめるには、もう一度メモリー/インデックスボタンを押す。

思い通りの設定で撮る

ズームする

ズームレバーCを軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームする。

広角：Wide（ワイド）

望遠：Telephoto（テレフォト）

ちょっと一言

- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。
- 被写体との距離が80cm以内の被写体は、ズーム位置によってはピントが合わないことがあります。
- ズームレバーから指を離さずに操作してください。指を離すとズームレバーの操作音が記録されることがあります。

ハンドルズームを使うには

① ハンドルズーム切換スイッチBを「L」（遅い）または「H」（速い）にする。

ちょっと一言

［ハンドルズームスピード］でハンドルズームレバーの速度を設定できます（57ページ）。

② ハンドルズームレバーA を押してズームする。

ご注意

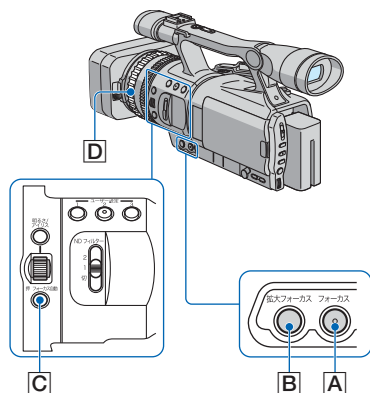
- ハンドルズームの押し具合でズーム速度を変えることはできません。
- ハンドルズーム切換スイッチが「切」になっていると、ハンドルズームは使えません。
- ハンドルズーム切換スイッチBで本体のズームレバーCの速さを変えることはできません。

ズームリングを使うには

ズームリングDを回して好みの速さでズームすることができます。微調整も可能です。

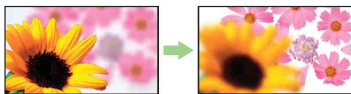
ご注意

- ズームリングは適度な速さで回してください。速すぎると、ズームがリングの回転に追いつかないことがあります。

ピントを手動調節する

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。
以下のようなときに使います。

– 水滴の付いた窓の向こうの被写体
– 横じまの多い被写体
– 背景とコントラストの弱い被写体
– 意図的にピントを手前の被写体から奥の被写体に送るとき

撮る/見る

次のページへつづく➡

– 三脚で撮影する静止した被写体

1 撮影またはスタンバイ中に、フォーカスボタンⒶを押す。

が表示されます。

2 フォーカスリングⒹを回し、ピントが合うように調節する。

は、ピントをそれ以上遠くに合わせられないとき に変わり、それ以上近くに合わせられないとき に変わります。

ご注意

- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に自動調節（お買い上げ時の設定）に戻ります。

ちょっと一言

ピント合わせのコツ

- 始めにズームをT側（望遠）でピントを合わせてから、W側（広角）に戻していきます。
- 接写時は、逆にズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

自動調節に戻すには

フォーカスボタンⒶをもう一度押す。
が消え自動調節に戻ります。

一時的にオートフォーカスで撮る（ワンプッシュオートフォーカス）

押 フォーカス自動ボタンⒸを押したまま撮影する。
指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体にピントを移すようなときに使うと、なめらかな場面展開になります。

ちょっと一言

- 次のとき、フォーカス距離情報（ピントが合う距離。暗くてフォーカスが合わせにくいときに目安として使用します）を約3秒間表示します。（別売りのコンバージョンレンズを付けているときは正しく表示されません。）
  – ピントを合わせる設定を自動から手動に切り換えたとき
  – フォーカスリングを回したとき

拡大表示をしてピントを合わせる（拡大フォーカス）

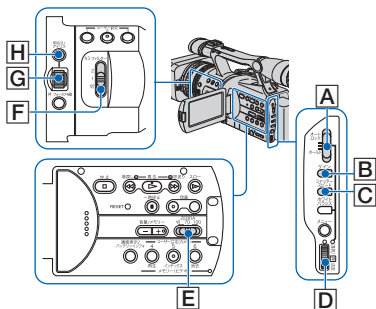
スタンバイ中に拡大フォーカスボタンⒷを押す。
［拡大フォーカス］が表示され、画面中央が約2倍に拡大されます。ピントが合っているかを確認するときに便利です。もう一度押すと元に戻ります。

ご注意

- 拡大表示中に録画スタート/ストップボタンまたはフォト/拡大フォーカスボタンを押すと、拡大表示は解除されます。

ちょっと一言

- 拡大フォーカス時の画像タイプを選択できます（［拡大フォーカスタイプ］（62ページ））。

明るさ/アイリスを調節する

明るさ/アイリスダイヤルGで画像の明るさを調節できます。

明るさ/アイリスダイヤルGに、メニューで[カメラ明るさ](お買い上げ時の設定)、[アイリス]、[AEシフト]から1つを選んで割り当てることができます(55ページ)。

ちょっと一言

- [カメラ明るさ]、[アイリス]設定時にアイリス値をF2.8よりも絞りを開いた(アイリス値が小さい)値(例:F1.6)に設定してもズームがW→Tになるにつれてアイリスは F2.8に変化します。
- 明るさ/アイリスダイヤルを[カメラ明るさ]に設定していると、明るさ/アイリスダイヤルで設定可能な値の横に E が表示されます。

■ カメラ明るさ(お買い上げ時の設定)

画像の明るさをアイリスとゲインで調節できます(シャッタースピードは固定となります)。
画面にアイリス、ゲイン、シャッタースピードが表示されます。

EF2.4　E 0dB　60

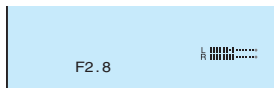
ご注意

- ゲインボタン、シャッタースピードボタンは無効になります。

ちょっと一言

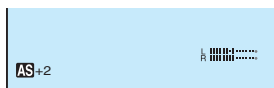
- ダイヤル操作で画面の明るさを変え、好みの明るさに固定したいときに便利です。

■ アイリス

レンズに入る光量をF1.6～F11、クローズの範囲で調節できます。絞りを開く(アイリス値を小さくする)と光量が増えます。絞りを閉じる(アイリス値を大きくする)と、光量が減ります。
画面にアイリス値が表示されます。

ちょっと一言

- 絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く(ピントの合う範囲が狭く)なり、絞りを閉じると深く(ピントの合う範囲が広く)なります。撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。
- 背景をぼけさせたり、くっきりさせたいとき、またはアイリス、ゲイン、シャッタースピードを手動調節したいときに便利です。

■ AEシフト

オート撮影時に画面の明るさを少し調節したいときに、露出を手動で-7(暗く)～+7(明るく)の範囲で調節できます。
画面に AS が表示されます。

ご注意

- アイリスは手動調節できません。
- カメラ明るさが手動設定のときや、アイリス/ゲイン／シャッタースピードが全て手動設定のときAEシフトは効果がありません。

次のページへつづく➡

ちょっと一言
- AEシフトはメニューで調節することもできます(56ページ)。

1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチAを中央(オートロック解除位置)にする。

明るさ/アイリスダイヤルにAEシフトを割り当てた場合はこの操作は不要です。

2 明るさ/アイリスボタンHを押す。

明るさ/アイリスダイヤルGが有効になります。

3 明るさ/アイリスダイヤルGを回して、好みの設定にする。

ちょっと一言
- 手動調節のあと、オートロックスイッチAを「ホールド」の位置にすると、設定値が保持されます。

自動調節に戻すには

明るさ/アイリスボタンHを押す。または、オートロックスイッチAを「オートロック」にする。

ご注意
- オートロックスイッチAを「オートロック」にすると、他の手動調節(ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランス)も一時的に解除されます。
- ズームがW側(広角)からT側(望遠)になるにつれて、アイリス値はF1.6からF2.8に変わります。
- [カメラ明るさ]、[アイリス]で手動調節した設定値は、電源を切ってから12時間経つとお買い上げ時の設定(自動調節)に戻ります。

ちょっと一言
- 明るさ/アイリスダイヤルGの回転方向を[ダイヤル設定方向](55ページ)で、感度を[ダイヤル感度](55ページ)変えることができます。
- 設定値は、ステータスチェックボタンでも確認できます(43ページ)。
- 逆光補正については、58ページをご覧ください。

光量を調節する(NDフィルター)

撮影状況が明るすぎるときは、NDフィルターを使うと被写体を鮮明に撮影できます。
NDフィルター1は光量を約1/4に、NDフィルター2は約1/16に削減するように設定されています。

スタンバイ中に、ND1が点滅したときは、NDフィルタースイッチFを「1」にしてND1を点灯させる。ND2が点滅したときは「2」にしてND2を点灯させる。
NDOFFが点滅したときは「切」にして表示を消す。

ご注意
- 撮影中にNDフィルターを切り換えると、画像が乱れたり音声にノイズが入ることがあります。
- アイリスを手動で調節しているときは、NDフィルターの設定が必要な場合でも、NDフィルター表示が出ません。

ちょっと一言
- 明るい被写体を撮影するとき、アイリスを極端に絞ると回折現象が生じピントが甘くなることがあります。(ビデオカメラでは一般的に起こる現象です。)NDフィルターを使うと、この現象を抑え、より良好な撮影結果を得ることができます。

ゼブラパターンで明るさを調節する

画面の中で輝度が一定レベルを超える部分は白とびが生じることがあります。この部分にしま模様(ゼブラパターン)を表示する機能です。明るさを調節するときの目安として使用します。
ゼブラスイッチEでお好みの輝度レベルを選ぶと、ゼブラパターンが表示されます。
輝度レベルは[70]、[100]から選びます。
[70]を選ぶと、輝度レベルが70±5%の輝度信号の部分にゼブラパターンが現れます。
[100]を選ぶと、100%以上の部分にゼブラパターンが現れます。

ゼブラパターンを消すには

ゼブラスイッチを「切」にする。

ご注意
- ゼブラパターンはテープには記録されません。

ちょっと一言
- ヒストグラム(61ページ)を表示しながら明るさ調節すると便利です。

ゲインを調節する

黒っぽい被写体や暗い被写体を撮影するときに、AGC(オートゲインコントロール)によるゲインアップを行いたくないときなどに使います

① 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチ A を中央(オートロック解除位置)にする。
② ゲインボタン B を押す。
ゲイン値が表示されます。
③ 選択/押 決定ダイヤルDを回して調節する。
0dB ～ 18dB の間で、3dB 間隔で調節できます。

ちょっと一言
- 手動調節のあと、オートロックスイッチAを「ホールド」の位置にすると、設定値が保持されます。

自動調節に戻すには

ゲインボタンBを押す。または、オートロックスイッチAを「オートロック」にする。

ご注意
- オートロックスイッチAを「オートロック」にすると、他の手動調節(アイリス、シャッタースピード、ホワイトバランス)も一時的に解除されます。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的に自動調節に戻ります。

シャッタースピードを調節する

シャッタースピードを自由に調節し、固定できます。被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調して撮影するときに便利です。

① 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチ A を中央(オートロック解除位置)にする。
② シャッタースピードボタン C を押す。
③ 選択 / 押 決定ダイヤル D を回して、シャッタースピードを調節する。
1/4 秒～ 1/10000 秒の範囲で選べます。シャッタースピードが画面に表示されます。例えば、1/100 秒にすると[100]と表示されます。画面上の数値が大きくなるほどシャッタースピードが速くなります。

ちょっと一言
- 手動調節のあと、オートロックスイッチAを「ホールド」の位置にすると、設定値が保持されます。

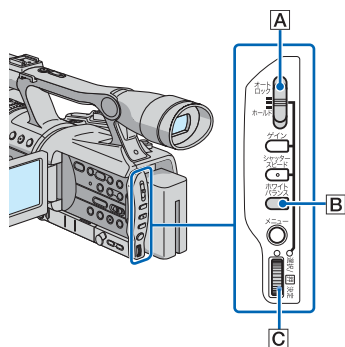
撮る/見る

自動調節に戻すには

シャッタースピードボタンCを押す。または、オートロックスイッチAを「オートロック」にする。

ご注意
- オートロックスイッチAを「オートロック」にすると、他の手動調節(アイリス、ゲイン、ホワイトバランス)も一時的に解除されます。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的に自動調節に戻ります。

ちょっと一言
- シャッタースピードが遅いと、自動でピントが合いにくくなります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせることをおすすめします。
- 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると、画面が明滅したり(フリッカー現象)、色が変化したりすることがあります。このようなときは、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100、関西地方など60Hzの地域では1/60に設定することをおすすめします。

自然な色合いに調節する(ホワイトバランス)

撮影する場面の光に合わせてホワイトバランスを固定するときに使います。A、またはBを選ぶと、ホワイトバランスの調整値をメモリーAとBに個別に記憶させることができます。撮影時は選択/押 決定ダイヤルで設定値を選びます。調整値は、再調整しない限り電源を切っても保持されます。

1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチAを中央(オートロック解除位置)にする。

2 ホワイトバランスボタンBを押す。

3 選択/押 決定ダイヤルCを回し、お好みの設定を表示させる。

表示がA→B→(屋外)→(屋内)と変わる。

表示	撮影状況例
A(メモリーA) B(メモリーB)	• メモリーA/Bそれぞれに、光源に合わせたホワイトバランスの調整値を記憶させることができます。以下の手順に従ってください。
(屋外)	• 夜景やネオン、花火などを撮るとき • 日の出、日没などを撮るとき • 昼光色蛍光灯の下
(屋内)	• パーティー会場など照明条件が変化する場所 • スタジオなどビデオライトの下 • ナトリウムランプや水銀灯の下

ちょっと一言
- 手動調節のあと、オートロックスイッチAを「ホールド」の位置にすると、設定値が保持されます。

メモリーA,Bにホワイトバランスの調整値を記憶させるには

① 「自然な色合いに調節する（ホワイトバランス）」の手順３で A または B を選ぶ。

② 被写体と同じ照明条件のところで、白い紙などを画面いっぱいに映す。

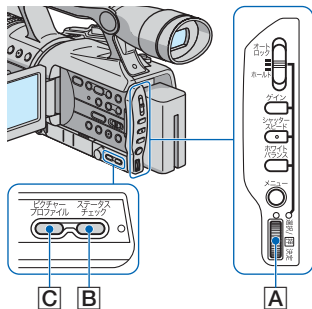
③ 選択 / 押 決定ダイヤル C を押す。
A または B が早い点滅に変わる。ホワイトバランスが調節されると、点滅から点灯に変わり、選んだ A または B 調整値が記憶されます。

自動調節に戻すには

ホワイトバランスボタン B を押す。または、オートロックスイッチ A を「オートロック」にする。

ご注意

- オートロックスイッチ A を「オートロック」にすると、他の手動調節（アイリス、ゲイン、シャッタースピード）も一時的に解除されます。
- 電源を「切（充電）」にして12時間以上経つと、自動的に自動調節に戻ります。

あらかじめ設定した画像で撮る（ピクチャープロファイル）

［色のこさ］や［シャープネス］などを調節して好みの画質設定を作れます。6種類の画質を設定できるので、撮影時間帯や気象条件、または使う人ごとに設定できます。
設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。
お買い上げ時は、［PP1］から［PP6］に、撮影条件に合わせた設定値があらかじめ登録されています。

ピクチャープロファイル番号（設定名）	撮影条件
PP1（PORTRAIT）	人物撮影向けの設定値
PP2（CINEMA）	映画のような映像を撮影するときの設定値
PP3（SUNSET）	夕焼けを撮影するときに適した設定値
PP4（MONOTONE）	モノトーン撮影するときの設定値
PP5（-----）	お好みに合わせて登録できます。
PP6（-----）	お好みに合わせて登録できます。

1 **スタンバイ中に、ピクチャープロファイルボタン C を押す。**

2 **選択/ 押 決定ダイヤル A を回してピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。**

［PP1］から［PP6］まで選べます。

選択したピクチャープロファイルの設定で撮影できます。

3 **選択/ 押 決定ダイヤル A で［OK］を選んで、押して決定する。**

ピクチャープロファイル撮影をやめるには

手順2で［切］を選び、選択/押 決定ダイヤルAを押して決定する。

ピクチャープロファイルの内容を変更するには

［PP1］～［PP6］の設定内容を変更できます。

① ピクチャープロファイルボタン C を押す。
② 選択 / 押 決定ダイヤル A を回して、設定を変更するピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。
③ 選択 / 押 決定ダイヤル A を回して［設定変更］を選び、押して決定する。
④ 選択/押 決定ダイヤルAを回して調節したい項目を選び、押して決定する。
⑤ 選択/押 決定ダイヤルAを回して画質を調節し、押して決定する。

項目	調節する内容
［色のこさ］	－7（薄くなる）～＋7（濃くなる） －８白黒で撮影する。
［色相］	－7（緑がかる）～＋7（赤みがかる）
［シャープネス］	0（輪郭が柔らかくなる）～15（くっきりする）
［スキントーンディテール］	肌色部分の輪郭を抑えて、肌のしわを目立たなくする。 ［タイプ1］（肌色と認識する色の領域が狭い）～［タイプ3］（肌色と認識する色の領域が広い） ［切］：設定しない。
［WBシフト］	－7（画像が青みがかる）～＋7（赤みがかる）
［シネマトーンガンマ］	［入］にするとフィルムカメラに近い自然な階調性を再現するガンマカーブで撮影する。
［プロファイル名］	設定したピクチャープロファイル［PP1］から［PP6］に名前を付けることができます（37ページ）。
［コピー］	他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーする。
［リセット］	ピクチャープロファイルをお買い上げ時の設定に戻す。

⑥ ④～⑤を繰り返して他の項目を調節する。
⑦ 選択/押 決定ダイヤルAを回して［↩ 戻る］を選び、押して決定する。
⑧ 選択/押 決定ダイヤルAを回して［決定］を選び、押して決定する。
ピクチャープロファイルの表示が出ます。

ご注意

- ［スキントーンディテール］で［タイプ3］を選択している場合、肌色でない部分に効果が出ることがあります。

ピクチャープロファイルの設定を確認するには

撮影またはスタンバイ中に、ステータスチェックボタンBを押す（43ページ）。

ちょっと一言

- ユーザー設定ボタンにピクチャープロファイルを設定して、ピクチャープロファイルを入/切できます（38ページ）。

ピクチャープロファイルの各設定に名前をつけるには

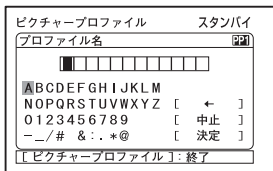
ピクチャープロファイル1〜6それぞれに、任意で名前がつけられます。

① ピクチャープロファイルボタン C を押す。

② 選択/押 決定ダイヤルAを回して名前を設定するピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ 選択/押 決定ダイヤルAで[設定変更]→[プロファイル名]を選ぶ。

④ 選択/押 決定ダイヤルAを回して文字を選択し、押して決定する。この操作を繰り返してプロファイル名を入力する。

ちょっと一言

- 12文字までの名前をつけられます。
- 使用できる文字
  - –A〜Z
  - –0〜9
  - –− _ / # & : . * @

⑤ 選択 /押 決定ダイヤル A で[決定]を選び、押して決定する。

プロファイル名が変更されます。

⑥ 選択/押 決定ダイヤルAで「↩ 戻る」→「決定」を選ぶ。

ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

① ピクチャープロファイルボタン C を押す。

② 選択/押 決定ダイヤルAを回してコピー元のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ 選択/押 決定ダイヤルAで[設定変更]→[コピー]を選ぶ。

④ 選択/押 決定ダイヤルAを回してコピー先のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

⑤ 選択/押 決定ダイヤルAを回して[はい]を選び、押して決定する。

⑥ 選択/押 決定ダイヤル Aで「↩ 戻る」→「決定」を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

① ピクチャープロファイルボタン C を押す。

② 選択/押 決定ダイヤルAを回してお買い上げ時の設定に戻したいピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ 選択 /押 決定ダイヤル A を回して[設定変更]→[リセット]→[はい]→「↩ 戻る」→「決定」を選ぶ。

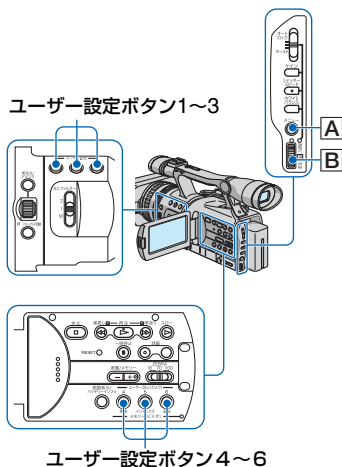
ユーザー設定ボタンに機能を設定する

機能によっては、ユーザー設定ボタンに割り当てて操作するものがあります。ユーザー設定ボタン1～6に1つずつ割り当てられます。

割り当てられる機能

- マーカー（61ページ）
- デジタルエクステンダー（59ページ）
- フォーカス無限（39ページ）
- レックレビュー（40ページ）
- エンドサーチ操作（40ページ）
- インデックス打ち込み（39ページ）
- ピーキング（61ページ）
- 手ぶれ補正（56ページ）
- カラーバー（56ページ）
- スポットライト（59ページ）
- 逆光補正（58ページ）
- フェーダー（59ページ）
- 画面表示（43ページ）
- ピクチャープロファイル（35ページ）
- ショットトランジション（40ページ）

ご注意

- ユーザー設定ボタン4～6は、電源スイッチが「ビデオ」の位置のときはメモリー再生用のボタンになり、ユーザー設定ボタンとして使用できません。電源スイッチが「ビデオ」の位置のときはユーザー設定ボタン4～6に機能を割り当てることもできません。

1 メニューボタンAを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルBで（その他）メニュー→［ユーザー設定ボタン登録］を選ぶ。

3 選択/押 決定ダイヤルBを回して設定したいユーザー設定ボタンの番号（ユーザー設定1～6、［ショットトランジション］）を選び、押して決定する。

- 機能が割り当てられていないボタンには、［------］が表示されます。
- ［ショットトランジション］を選んだときは［はい］を選んでから、手順6に進んでください。

4 選択/押 決定ダイヤルBを回して割り当てる機能を選び、押して決定する。

5 **選択/押 決定ダイヤルBを回して[決定]を選び、押して決定する。**

6 **メニューボタンAを押して、メニュー画面を消す。**

ちょっと一言

- ショットトランジションはユーザー設定ボタン1/2/3に割り当てられます(40ページ)。ショットトランジションの割り当てを解除すると、設定前の割り当てに戻ります。
- ショットトランジションを解除するには、手順3で[ショットトランジション]→[はい]を選ぶ。

遠くの被写体にピントを合わせる(フォーカス無限)

ご注意

- [フォーカス無限]はピントを手動調節中のみ有効です。ピントを自動調節しているときは働きません。

1 **ユーザー設定ボタンに[フォーカス無限]を設定する(38ページ)。**

2 **[フォーカス無限]を割りあてたユーザー設定ボタンを押す。**

が表示されます。

指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

インデックス信号を打ち込む

インデックス信号を打ち込んで撮影すると、その場面を頭出しできます(45ページ)。インデックスの変わり目を確認したり、インデックスごとに編集するときに便利です。

1 **ユーザー設定ボタンに[インデックス打込み]を設定する(38ページ)。**

2 **[インデックス打込み]を割りあてたユーザー設定ボタンを押す。**

撮影中に押したとき

約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

スタンバイ中に押したとき

が点滅します。

録画スタート/ストップボタンを押して録画を始めると、約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

インデックス打ち込みを取り消すには

録画を始める前に、インデックス機能を割り当てたユーザー設定ボタンをもう一度押す。

ご注意

- 撮影したテープにインデックスを後から打ち込むことはできません。

テープを停止した場面を確認する（レックレビュー）

テープを停止させた場面を約２秒間再生し、確認できます。直前に撮影した映像を確認するのに便利です。

1 ユーザー設定ボタンに［レックレビュー］を割り当てる（38ページ）。

2 スタンバイ中に、レックレビューを割り当てたユーザー設定ボタンを押す。

テープを停止した部分が約２秒間再生され、スタンバイに戻ります。

最後に録画した場面を頭出しする（エンドサーチ操作）

ご注意

- カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。

1 ユーザー設定ボタンに［エンドサーチ］を設定する（38ページ）。

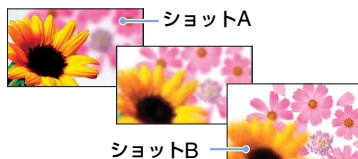
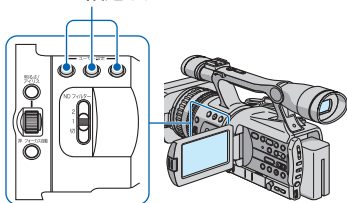
2 ［エンドサーチ］を割り当てたユーザー設定ボタンを押す。

最後に録画した場面の末尾の約5秒間が再生され、最後の録音が終わった場面でスタンバイに戻ります。

ご注意

テープの途中に無記録部分があると、エンドサーチが正しく働かない場合があります。

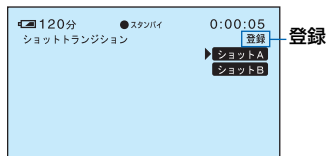
ショットトランジションを使う

フォーカス、ズーム、アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスの設定を登録し、登録した設定へなめらかに遷移（ショットトランジション）することができます。
例えば、画面手前にフォーカスが合っている状態から徐々に画面奥の被写体にフォーカス送りをしたり、アイリスを設定して被写界深度を変化させたりできます。
また、ホワイトバランスなどの手動調節機能を登録して、屋内の被写体から屋外の被写体へと、異なる撮影環境の間もなめらかに場面を切り換えることができます。
手ぶれを防ぐために三脚を使うことをおすすめします。

［ショットトランジション］で遷移カーブや遷移時間を設定できます（57ページ）。

1 ユーザー設定ボタンに［ショットトランジション］を設定する（38ページ）

ちょっと一言

- ショットトランジションは、ユーザー設定ボタンの1/2/3に同時に設定されます。

2 設定（ショット）を登録する

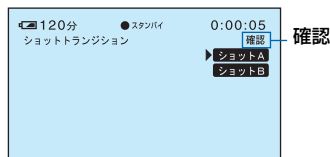
① ユーザー設定ボタン1を繰り返し押して、ショットトランジション登録画面にする。

② 手動で設定を調節する。
各機能の調整のしかたについては、29～35ページをご覧ください。

③ ユーザー設定ボタン2を押すとショットA、ユーザー設定ボタン3を押すとショットBに登録される。

ご注意

- 登録したショットA、ショットBの設定値は、電源スイッチを「切（充電）」にすると消去されます。

3 登録したショットを確認する

① ユーザー設定ボタン1を繰り返し押して、ショットトランジション確認画面にする。

② ショットAを確認するにはユーザー設定ボタン2を、ショットBを確認するにはユーザー設定ボタン3を押す。
登録したショットの画像に変わります。フォーカスやズームなどが登録した設定に自動的に調節されます。

ご注意

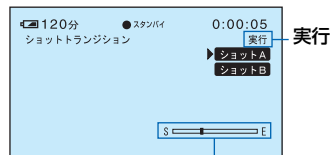
- ［トランジションタイム］や［トランジションカーブ］（57ページ）で遷移する様子は確認できません。

4 ショットトランジションを使って撮影する

① ユーザー設定ボタン1を繰り返し押して、ショットトランジション実行画面にする。

② 録画スタート/ストップボタンを押す。

撮る/見る

次のページへつづく➡

③ ショットAで撮影するにはユーザー設定ボタン２を、ショットBで撮影するにはユーザー設定ボタン３を押す。
現在の録画設定から、登録した設定に遷移します。

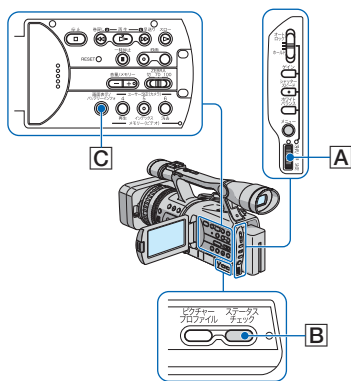
ちょっと一言
- ショットトランジションを中止するには、ユーザー設定ボタン１を繰り返し押して、ショットトランジションを解除してください。

ご注意
- ショットトランジションの確認と実行操作中は、手動調節やズーム、フォーカスは働きません。
- ［ショットトランジション］（57ページ）を変更するときは、ユーザー設定ボタン１を繰り返し押して、ショットトランジション画面を抜けてから変更してください。
- 任意の設定からショットトランジションを実行したとき、登録したショットＡ、またはショットＢから元の設定に戻すことはできません。
- ショットトランジション操作中に次のボタンを押すと、ショットトランジションが解除されます。
  – ピクチャープロファイル
  – メニュー
  – 拡大フォーカス
  – ステータスチェック

ちょっと一言
- 登録したショットAからショットBへ、またはその逆に遷移することもできます。例えばショットAからショットBに遷移するときは、ショットトランジション確認画面を表示させてユーザー設定ボタン２を押して、あらかじめショットＡの状態にしてから、録画スタート/ストップボタンを押します。次にショットトランジション実行画面を表示させてユーザー設定ボタン３を押してください。
- 手順4で録画スタート/ストップボタンを押す前に、希望の設定を登録したユーザー設定ボタン（２または３）を押すと、ショットトランジションのリハーサルができます。

ショットトランジションを解除するには

ユーザー設定ボタン１を繰り返し押して、ショットトランジション画面から抜ける。

本機の設定を変更／確認する

画面表示を切り替える

タイムコードなどの情報を画像とあわせて表示できます。

画面表示/バッテリーインフォボタンCを押す。

押すたびに、(非表示)⟷(表示)と変わります。

ちょっと一言

- テレビにつないで見るときは、[画面表示出力]を[ビデオ出力／パネル]に設定すると、テレビ画面でも同様に画面表示できます(64ページ)。

本機の設定を確認する(ステータスチェック)

以下の項目がどのような設定値になっているかを確認できます。

- マイク音量レベルなどの音声設定(60ページ)
- 出力に関する設定([ビデオ HDV/DV](64ページ)など)
- ユーザー設定ボタンに割り当てた機能(38ページ)
- カメラに関する設定(55ページ)
- ピクチャープロファイル(35ページ)

1 ステータスチェックボタンBを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルAを回して、項目を表示する。

電源スイッチが「カメラ」のときは、オーディオ→出力→ユーザー設定→カメラ→ピクチャープロファイルと切り替わります。
電源スイッチが「ビデオ」のときは、オーディオ→出力→ユーザー設定と切り換わります。

ご注意

- ピクチャープロファイルの設定が[切]の場合、ピクチャープロファイルの情報は表示されません。

情報表示を消すには

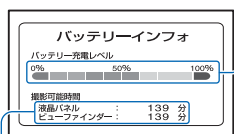
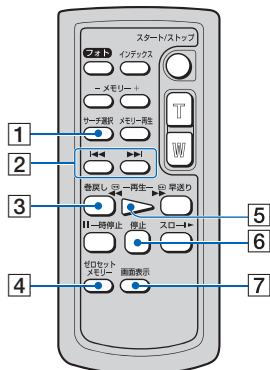
ステータスチェックボタンBを押す。

バッテリー残量を確認する(バッテリーインフォ)

電源スイッチを「切(充電)」にしたあと、画面表示/バッテリーインフォボタンCを押すと、選択している録画フォーマットでの録画可能時間とバッテリーの情報が約7秒間表示される。情報が表示されている間に再度ボタンを押すと、最大20秒まで表示を延長できる。

おおよそのバッテリー残量

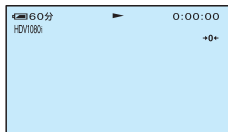
おおよその撮影可能時間

撮る/見る

テープの頭出しをする

ご注意

- リモコンについては119ページもご覧ください。

見たい場面にすばやく戻す（ゼロセットメモリー）

1 再生中に後で頭出ししたい場面で、ゼロセットメモリーボタン[4]を押す。

テープカウンターが「0:00:00」になり、➜0← が点灯する。

テープカウンターが表示されないときは、画面表示ボタン[7]を押す。

2 見終わったら、停止ボタン[6]を押す。

3 ◀◀巻戻しボタン[3]を押す。

「0:00:00」付近になると、自動的に停止する。

テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

4 再生ボタン[5]を押す。

「0:00:00」の場面からもう1度再生する。

ゼロセットメモリーを解除するには

巻き戻す前に、ゼロセットメモリーボタン[4]をもう1度押す。

ご注意

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が生じることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

撮影日でテープを頭出しする（日付サーチ）

撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタン[1]を繰り返し押して、「日付サーチ」を選ぶ。

3 リモコンの⏮（前の日付）/⏭（後の日付）ボタン[2]を押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後の日付を選びます。
選んだ場面で自動的に再生します。

日付サーチを中止するには

リモコンの停止ボタン[6]を押す。

ご注意

- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。

録画の開始位置を探す（インデックスサーチ）

撮影開始時に打ち込んだインデックス（39ページ）を頭出しできます。

1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタン[1]を繰り返し押して、「インデックスサーチ」を選ぶ。

3 リモコンの⏮（前のインデックス）/⏭（後のインデックス）ボタン[2]を押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後のインデックスを選びます。選んだ場面で自動的に再生します。

インデックスサーチを中止するには

リモコンの停止ボタン[6]を押す。

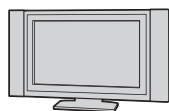
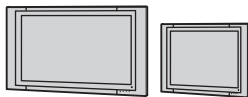
ご注意

- インデックスの間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく頭出しできないことがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。

テレビにつないで見る

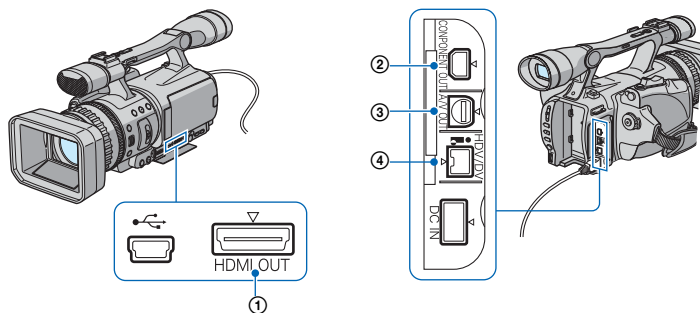
テレビの種類や接続する端子によって接続方法や再生される画質が異なります。
電源は、別売りのACアダプターを使ってコンセントからとってください（16ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

お使いのテレビの種類と付いている端子から、接続方法を選ぶ。

ハイビジョンテレビ

ワイドテレビ/4:3テレビ

ご注意
- 本機のメニュー設定は接続の前に行ってください。i.LINKケーブルにつないでから［ビデオ HDV/DV］や［i.LINK DV変換］の設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。

* DV 規格で撮影した画像はどの接続でも SD（標準）画質で再生されます。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

ハイビジョンテレビの接続方法

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

(入出力/録画設定)メニュー→[ビデオ HDV/DV]→[オート](64ページ)
[コンポーネント出力]→[D3](65ページ)

ご注意

- D端子コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

撮る/見る

次のページへつづく→

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
B	①	HDMIケーブル(別売り)	HDMI入力	(入出力/録画設定)メニュー→**[ビデオ HDV/DV]**→**[オート]**(64ページ)

ご注意

- **HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。**
- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像(74ページ)を出力することはできません。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。また、本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。

ちょっと一言

- HDMI (High Definition Multimedia Interface)とはテレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
C	④	i.LINKケーブル(別売り)	i.LINK	(入出力/録画設定)メニュー→**[ビデオ HDV/DV]**→**[オート]**(64ページ) **[i.LINK DV変換]**→**[切]**(65ページ)

ご注意

- **テレビにはHDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。詳しくはお使いのテレビの仕様をご確認ください。対応するソニー製機種の情報については、下記のURLをご覧ください。**
  http://www.sony.co.jp/cam/support
- お使いのテレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、付属のD端子コンポーネントビデオケーブルとAV接続ケーブルで A の接続をしてください。
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi.LINK端子は4ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

(入出力/録画設定)メニュー→**[ビデオ HDV/DV]→[オート]**(64ページ)
[コンポーネント出力]→[D3](65ページ)

ご注意

- コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)につないでください。

ワイドテレビ/4:3テレビの接続方法

テレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の比率を変えるには

ご覧になるテレビに合わせて[TVタイプ]を変更してください(66ページ)。

ご注意

- DV規格で記録したテープをワイド信号非対応の4:3テレビで再生する場合は、撮影時に[DVワイド記録]を[切]に設定してから撮影してください(65ページ)。

ちょっと一言

- モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときはAV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力へつないでください。モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

撮る/見る

次のページへつづく→

：信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

ご注意

- D端子コンポーネントケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子（赤と白）につないでください。

ご注意

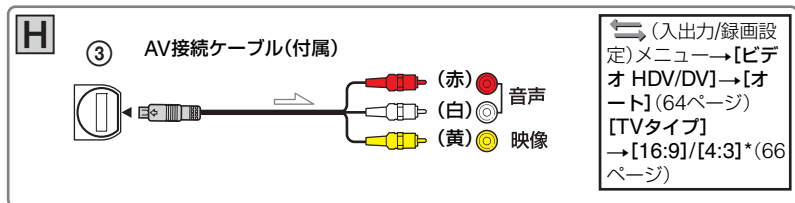
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi.LINK端子は4ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

ご注意

- S（S1、S2）映像端子のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはS映像ケーブル付きのAV接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。
- AV接続ケーブル（接続 H ）に比べ、画像をより忠実に再現できます。
- 本機はS1映像端子対応のため、つなぐ端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

(入出力/録画設定)メニュー→**[ビデオ HDV/DV]**→**[オート]**(64ページ)
[TVタイプ]
→[16:9]/[4:3]*(66ページ)

* お使いのテレビに合わせて設定してください。

ちょっと一言

- i.LINK以外の端子から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、HDMI端子→コンポーネントビデオ端子→S(S1、S2)映像端子→映像/音声端子の順で優先されます。
- i.LINKについて詳しくは105ページをご覧ください。

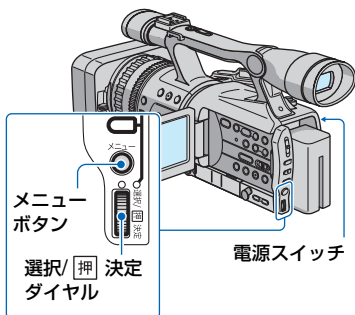
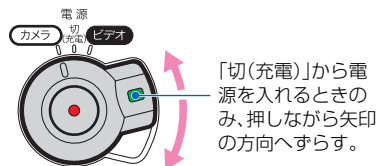
ビデオ経由でテレビにつなぐには

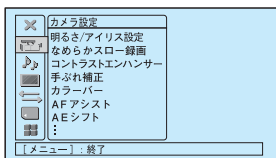
ビデオの入力端子によって71ページで接続方法を選ぶ。ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換える。

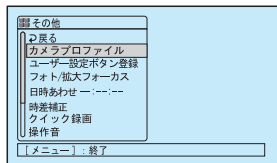
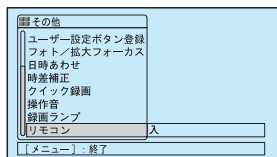
メニューの使いかた

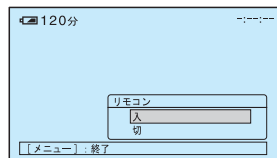
画面に表示されるメニューで、お好みの設定やより細かい設定ができます。

1 **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを切り換える。**

「切（充電）」から電源を入れるときのみ、押しながら矢印の方向へずらす。

2 **メニューボタンを押す。**

メニューインデックス画面が表示されます。

3 **選択/押 決定ダイヤルを回してメニューのマークを選び、押して決定する。**

カメラ設定（55ページ）
音声設定（60ページ）
表示設定（61ページ）
入出力/録画設定（64ページ）
メモリー設定（66ページ）
その他（68ページ）

4 **選択/押 決定ダイヤルを回して設定する項目を選び、押して決定する。**

設定できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できない項目は暗くなります。

5 **選択/押 決定ダイヤルを回して希望の設定を選び、押して決定する。**

6 **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

［戻る］を選ぶと1つ前の階層に戻ります。

メニュー一覧

電源スイッチの位置によって、使用可能（●）メニューが異なります。

電源スイッチの位置：	カメラ	ビデオ
（カメラ設定）メニュー（55ページ）		
明るさ/アイリス設定	●	−
なめらかスロー録画	●	−
コントラストエンハンサー	●	−
手ぶれ補正	●	−
カラーバー	●	−
AFアシスト	●	−
AEシフト	●	−
AEレスポンス	●	−
AGCリミット	●	−
オートアイリスリミット	●	−
AWB感度	●	−
フリッカー低減	●	−
ハンドルズームスピード	●	−
ショットトランジション	●	−
DVコマ撮り DV	●	−
逆光補正	●	−
スポットライト	●	−
デジタルエクステンダー	●	−
フェーダー	●	−
（音声設定）メニュー（60ページ）		
音声録音レベル	●	−
DV音声モード DV	●	−
バイリンガル	−	●
DV音声 ミックス DV	−	●
（表示設定）メニュー（61ページ）		
ピーキング	●	−
ヒストグラム	●	−
マーカー	●	−
拡大フォーカスタイプ	●	−
カメラデータ表示	●	−
音声レベル表示	●	−
パネル明るさ	●	●
パネル色のこさ	●	●
パネルバックライトレベル	●	●
VFバックライト	●	●
VF点灯モード	●	●
データコード	−	●
メニュー文字サイズ	●	●
残量表示	●	●
画面表示出力	●	●

次のページへつづく➡

電源スイッチの位置：	カメラ	ビデオ
（入出力/録画設定）メニュー（64ページ）		
録画フォーマット	●	－
ビデオ HDV/DV	－	●
DV録画モード DV	●	●
DVワイド記録 DV	●	－
コンポーネント出力	●	●
i LINK DV変換	●	●
TVタイプ	●	●
（メモリー設定）メニュー（66ページ）		
画質	●	●
全消去	－	●
フォーマット	●	●
ファイルナンバー	●	●
フォルダ作成	●	●
記録フォルダ選択	●	●
再生フォルダ選択	－	●
（その他）メニュー（68ページ）		
カメラプロファイル	●	●
ユーザー設定ボタン登録	●	●
フォト/拡大フォーカス	●	●
日時あわせ	●	●
時差補正	●	●
USB機能選択	－	●
再生ズーム	－	●
クイック録画 HDV1080i	●	－
操作音	●	●
録画ランプ	●	－
リモコン	●	●

(カメラ設定)メニュー

撮影状況に合わせるための設定(明るさ/アイリス設定/手ぶれ補正/逆光補正など)

▶は、お買い上げ時の設定。
( )内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、(カメラ設定)を選択すると表示されます。

明るさ / アイリス設定

■ ダイヤル割当

明るさ/アイリスダイヤルに割り当てる機能を[カメラ明るさ](お買い上げ時の設定)、[アイリス]、[AEシフト]から選べます(31ページ)。

ご注意
- 割り当てる機能を変えると、それまで手動設定されていた設定は自動設定に戻ります。

■ ダイヤル感度

明るさ/アイリスダイヤルの感度を[高]、[中](お買い上げ時の設定)、[低]から選びます。

■ ダイヤル操作方向

明るさ/アイリスダイヤルの回転方向を選びます。

▶ ノーマル
ダイヤルを上に回すと明るくなる。

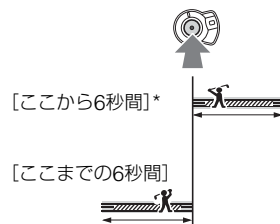
逆方向
ダイヤルを下に回すと明るくなる。

なめらかスロー録画

通常撮影では見ることができない高速な動作、現象を、なめらかなスローモーション映像として撮影します。ゴルフ、テニスなどの速い動きの撮影時に便利です。

[実行]を選んでから[なめらかスロー録画]画面で、録画スタート/ストップボタンを押す。

約6秒間の録画が、約24秒間のスローモーション映像として記録されます。[テープに録画中]が消えると記録が完了します。

[タイミング]を選択すると、録画スタート/ストップボタンを押して記録を開始するタイミングを下記の設定から選択できます。

* お買い上げ時の設定は[ここから 6 秒間]です。

解除するにはメニューボタンを押す。

ご注意
- 音声は記録されません。
- [なめらかスロー録画]の設定は、本機の電源を入れなおすと自動的に解除されます。
- 記録時間は目安です。条件により、記録時間が短くなることがあります。

コントラストエンハンサー

お買い上げ時は[入]のため、逆光シーンなどコントラストが高い画像を検出して、画像の黒つぶれを自動で軽減します。

ご注意
- [逆光補正]を[入]にすると、[コントラストエンハンサー]は一時的に解除されます。

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、 (カメラ設定)を選択すると表示されます。

手ぶれ補正

■ 入/切

お買い上げ時の設定は[入]のため、手ぶれ補正を使って撮影できます。三脚(別売り)を利用するときは、[切]( )にすると自然な画像になります。

■ タイプ

撮影状況に合わせて手ぶれ補正の効果を選ぶことができます。手ぶれ補正を解除したいときは、[入/切]で[切]を選びます。

ハード
強めに手ぶれ補正を働かせる。
パン･ティルト撮影には向きません。

▶スタンダード
通常の手ぶれ補正を使う。

ソフト
自然な手ぶれ感を残しつつ、手ぶれ補正を働かせる。

ワイドコンバージョン
ワイドコンバージョンレンズ(別売り)を使って撮影する。
ソニー製のVCL-HG0862ワイドコンバージョンレンズ(別売り)を使うときに最適な設定です。

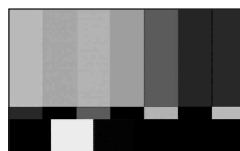
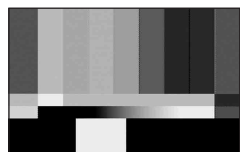
カラーバー

■ 入/切

「入」にするとカラーバーを表示したり、テープに記録することができます(お買い上げ時の設定は[切])。本機で撮影した画像をテレビやモニターで見るときに、カラーバーを見ながら色味を調節するときに便利です。

ご注意
- 本機の電源を入れなおすと自動的に「切」になります。

■ タイプ

カラーバーのタイプを選べます。

タイプ 1

タイプ2

タイプ3

AF アシスト

[入]に設定すると、オートフォーカスのとき、フォーカスリングを回して一時的に手動でピントを合わせることができます(お買い上げ時の設定は[切])。

AE シフト

選択/[押] 決定ダイヤルで明るさを-7(暗い)～+7(明るい)の範囲で調節できます。お買い上げの設定以外にすると、AS と設定した数値が表示されます。

ご注意
- アイリス、シャッタースピード、ゲインの全てを手動調節していると効果はありません。

AE レスポンス

被写体の明るさに追従して露出を自動調整する速度を選びます。[高速] [中速] [低速] から選びます。お買い上げ時は [高速] に設定されています。

AGC リミット

オートゲインコントロール(AGC)の上限値を[切](18dB、お買い上げ時の設定)、[12dB]、[6dB]、[0dB]から選べます。

ご注意
- ゲインを手動調節していると効果はありません。

オートアイリスリミット

アイリス設定が自動のとき、絞りの上限値[F11](お買い上げ時の設定)、[F5.6]、[F4]から選ぶことができます。

ご注意
- アイリスを手動調節していると効果はありません。

AWB 感度

白熱電球やろうそくなど赤みの強い光源下や、屋外の日陰など青みの強い光源下でのオートホワイトバランスの動作を設定できます。

▶インテリジェント
シーンの明るさに応じて自然な雰囲気になるように自動調節する。

高
赤みや青みが減る。

中

低
赤みや青みが増す。

ご注意
- ホワイトバランスが[オート]に設定されているときのみ有効です。
- 晴天時の日向では効果がありません。

フリッカー低減

▶入
通常の撮影時に選びます。電源周波数が50Hzの蛍光灯などの光源下で画面のちらつきを軽減します。

切
フリッカーを低減したくないときに選びます。

ご注意
- 照明によっては低減効果が現れないことがあります。

ハンドルズームスピード

ハンドルズーム切換スイッチのズームスピードを設定できます。

■ H
ハンドルズーム切換えスイッチの[H]のズームスピードを1(遅い)〜8(速い)から選べます(お買い上げ時の設定は6)。

■ L
ハンドルズーム切換えスイッチの[L]のズームスピードを1(遅い)〜8(速い)から選べます(お買い上げ時の設定は3)。

ショットトランジション

ショットトランジションの[トランジションタイム]と[トランジションカーブ]を設定をするときに選びます。ショットトランジションの操作方法については、40ページをご覧ください。

■ トランジションタイム
遷移時間を[3.5秒]〜[15.0秒]から選びます(お買い上げ時は[4.0秒])。

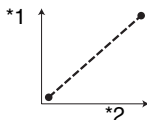
メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(カメラ設定)を選択すると表示されます。

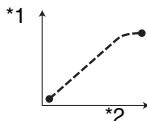
■ **トランジションカーブ**

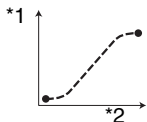
遷移カーブを選びます。
各モードのトランジションカーブは図のように遷移します。

* 1:パラメーター量
* 2:時間の遷移

リニア

直線的に遷移したいときに選びます。

▶ソフトストップ

終了地点付近をゆっくり遷移したいときに選びます。

ソフトトランジション

開始と終了地点付近はゆっくり遷移し、中間は直線的に遷移したいときに選びます。

ご注意

- ショットトランジション登録/確認/実行中は[トランジションタイム]、[トランジションカーブ]の設定変更はできません。ユーザー設定ボタン1を繰り返し押して、ショットトランジションの設定を解除してから設定変更してください。

DV コマ撮り DV

本機を固定した状態で人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。リモコンを使うと手ぶれを防げます。

▶切

通常の撮影。

入( )

コマ撮りする。

① 選択 / [押] 決定ダイヤルを回して[入]を選ぶ。
② メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。
③ 録画スタート/ストップボタンを押す。1コマ(約 6 フレーム)分を撮影し、スタンバイに戻ります。
④ 被写体を動かし、手順 3 を繰り返す。

ご注意

- 連続してコマ撮りをすると、テープ残量は正しく表示されません。
- 最終カットは通常の1コマよりも長くなります。
- コマ撮り中にはインデックスは打ち込めません。
- 本機の電源を入れなおすと自動的に「切」になります。

逆光補正

[入]に設定すると、が表示されて逆光補正されます(お買い上げ時の設定は[切])。

ご注意

- 逆光補正中に[スポットライト]を[入]にすると逆光補正は解除されます。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち、２つ以上を手動調節していると逆光補正の効果はありません。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的に[切](お買い上げ時の設定)に戻ります。

スポットライト

[入]( )に設定すると、舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに、人物の顔などが白く飛んでしまうのを防げます(お買い上げ時の設定は[切])。

ご注意

- スポットライト中に逆光補正を[入]に設定すると、スポットライトは解除されます。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上を手動で設定していると、スポットライトは使えません。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的に[切](お買い上げ時の設定)に戻ります。

デジタルエクステンダー

[入]( )に設定すると、約1.5倍に画像を拡大表示します。デジタル処理のため画質は劣化します。野鳥などの遠方の被写体を拡大するときに便利です(お買い上げ時の設定は[切])。

ご注意

- 本機の電源を入れなおすと自動的に「切」になります。

フェーダー

場面間に、効果を入れながら、つなぎ撮りできます。

① スタンバイ中(フェードインのとき)または録画中(フェードアウトのとき)に使いたい効果を選ぶ。

② 録画スタート/ストップボタンを押す。
フェーダー表示が点灯に変わり、終了後消える。

操作開始前に解除するには①で[切]を選ぶ。
1度録画スタート/ストップボタンを押すと、設定は解除されます。

ホワイトフェーダー

ブラックフェーダー

ご注意

- 本機の電源を入れなおすと[フェーダー]は自動的に解除されます。

♪(音声設定)メニュー

録音に関する設定(音声録音レベル/DV音声モードなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、♪(音声設定)を選択すると表示されます。

音声録音レベル

記録するときの音量を調節できます。

■ オート/マニュアル

▶オート
自動で調節する。

マニュアル(♪M)
手動で録音音量調節する。

■ レベル

[マニュアル]設定時のマイク音量レベルを調節できます。右に行くほどマイク録音レベルが上がります。

ちょっと一言
- ヘッドホンをつけて、レベルを確認しながら操作することをおすすめします。
- 電源を「切」にして12時間以上経つと、自動的に[オート]に戻ります。

DV 音声モード DV

▶12BIT
12ビット(2つのステレオ音声)で記録する。

16BIT(♪16b)
16ビット(高音質で1つのステレオ音声)で記録する。

ご注意
- HDV規格のときは、自動的に[16BIT]で記録されます。

バイリンガル

他機で二重音声(またはステレオ音声)で記録したテープを、本機で再生するときの音声が選べます。

▶切
主+副音声(またはステレオ音声)で再生する。

メイン
主音声(または左音声)で再生する。

サブ
副音声(または右音声)で再生する。

ご注意
- 本機は二重音声を再生できますが、記録はできません。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的に[切]に戻ります。

DV 音声ミックス DV

他機でアフレコや4CHマイク録音したテープの音声を再生時に確認できます。アフレコしたテープの再生時に、出力される音声を選びます。

▶ST1
撮影時の音声のみを出力するときに選びます。

ミックス
撮影時の音声とアフレコ音声を合成して出力するときに選びます。

ST2
アフレコした音声のみを出力するときに選びます。

ご注意
- DV音声モードが16ビットで記録されたテープでは、バランス調節できません。
- 電源を「切(充電)」にして12時間以上経つと、自動的にお買い上げ時の設定に戻ります。

(表示設定)メニュー

画面/ファインダーの表示設定(マーカー/VFバックライト/データコードなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、(表示設定)を選択すると表示されます。

ピーキング

■ 入/切

[入](ピーキング)に設定すると、画面上に画像の輪郭が強調して表示されるので、ピントが合わせやすくなります(お買い上げ時の設定は[切])。

■ 色

ピーキングの色を[白]、[赤]、[黄]から選べます(お買い上げ時の設定は[白])。

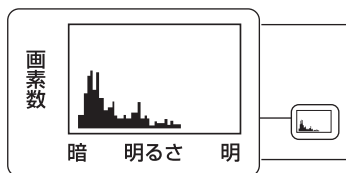
■ レベル

ピーキング感度を[高]、[中]、[低]から選べます(お買い上げ時の設定は[中])。

ご注意
- 輪郭強調された画像はテープに記録されません。

ちょっと一言
- 拡大フォーカス(30ページ)と一緒に使うと、ピントが合わせやすくなります。

ヒストグラム

[入]に設定すると、ヒストグラム(画像の明るさの分布を表した図(グラフ))が表示されます(お買い上げ時の設定は[切])。明るさを調節するときの目安にすると便利です。ヒストグラムを見ながら、明るさ/アイリスを調節できます(31ページ)。テープや"メモリースティック　デュオ"にヒストグラムは記録されません。

ちょっと一言
- グラフの左側は画面の暗い部分、右側は明るい部分を示します。
- ゼブラを[70]または[100]に設定すると、ヒストグラム上にガイドが表示されます(33ページ)。

マーカー

[入/切]を[入]に設定すると、[センター]、[ガイドフレーム]マーカーを表示できます。

■ 入/切

[入]にするとマーカーが表示されます(お買い上げ時の設定は[切])。
マーカーは記録されません。

■ センター

[入]にすると画面の中心にマーカーを表示する(お買い上げ時の設定は[入])。

■ ガイドフレーム

[入]に設定すると、フレームを表示して被写体が水平/垂直になっているかを確認できる(お買い上げ時の設定は[切])。

ご注意
- マーカー表示中はアナログ端子から画面表示を出力することはできません。

次のページへつづく→

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、 (表示設定)を選択すると表示されます。

ちょっと一言
- [センター]、[ガイドフレーム]を同時に表示できます。
- ガイドフレームの交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。
- マーカー表示は、LCDパネルとファインダーのみに表示されます(外部に出力することはできません)。

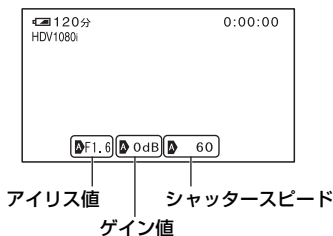
拡大フォーカスタイプ

拡大フォーカスの表示方法を設定できます。

▶**タイプ1**
画像をそのまま拡大する。

タイプ2
画像を白黒にして拡大する。

カメラデータ表示

[入]にするとアイリス、シャッタースピード、ゲインの値を常に表示します(お買い上げ時の設定は[切])。

ちょっと一言
- カメラデータ表示の設定に関わらず、マニュアル設定時は設定値が表示されます。
- A は自動設定されていることを示します。
- [データコード]を[カメラデータ]に設定したときに表示される項目とは異なります(63ページ)。

音声レベル表示

お買い上げ時は[入]のため、画面にオーディオレベルメーターが表示されます。

パネル明るさ

選択/押 決定ダイヤルで、液晶画面の明るさを調節できます。録画される画像に影響はありません。

ちょっと一言
- 液晶画面バックライトを消すこともできます(20ページ)。

パネル色のこさ

選択/押 決定ダイヤルで、液晶画面の濃さを調節できます。録画される画像に影響はありません。

パネルバックライトレベル

液晶画面バックライトの明るさを調節できます。

▶**ノーマル**
通常の設定(標準の明るさ)。

明るい
画面が暗いと感じたときに選ぶ。

ご注意
- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に[明るい]になります。
- [明るい]を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

VF バックライト

ファインダーの明るさを調節できます。

▶ノーマル
通常の設定（標準の明るさ）。

明るい
ファインダーが暗いと感じたときに選ぶ。

ご注意
- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に[明るい]になります。
- [明るい]を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

VF 点灯モード

▶オート
液晶画面を閉じたときと対面撮影時に、ファインダーが点灯する。

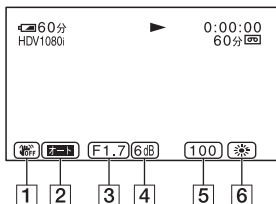
入[常時]
常にファインダーが点灯する。

データコード

撮影時に自動的に記録された情報（日時やカメラデータ）を再生時に表示できます。

▶切
日時やカメラデータを表示しない。

日付データ
日付、時刻を表示。

カメラデータ
カメラデータを表示。

1 手ぶれ補正　切
2 明るさ調節
アイリス/ゲイン/シャッタースピードすべてを自動調節で撮影すると オート 、1つでも手動調節で撮影すると マニュアル と表示されます。
3 アイリス値
手動でアイリス値を最大にしておくと、アイリス値の場所に クローズ と表示されます。
4 ゲイン
5 シャッタースピード
6 ホワイトバランス
ショットトランジション撮影した画像を再生すると、 PWB が表示されます。

ご注意
- “メモリースティック　デュオ”の静止画再生時は、露出補正値（0EV）とシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- [日付データ]のときは、同じエリアに日時が表示されます。日時、時刻を設定せずに撮影すると、[---- -- --]と[--:--:--]が表示されます。

メニュー文字サイズ

▶ノーマル
通常の大きさでメニュー表示する。

2x
選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。

残量表示

▶オート
次のときにテープ残量を約8秒間表示する。
- カセットが入った状態で電源スイッチを「ビデオ」か「カメラ」にしたとき
- ►（再生）ボタンまたは画面表示/バッテリーインフォボタンを押したとき

入
テープ残量を常に表示する。

次のページへつづく➡

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、(表示設定)を選択すると表示されます。

画面表示出力

▶ **パネル**

タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。

ビデオ出力/パネル

画面表示をテレビ画面、液晶画面、ファインダーに出す。

(入出力/録画設定)メニュー

録画、入出力に関する設定(ビデオHDV/DV/DV録画モード/DVワイド記録/TVタイプなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/押 決定ダイヤルで、(入出力/録画設定)を選択すると表示されます。

録画フォーマット

撮影する録画規格を選択できます。

▶ HDV1080i(HDV1080i)

HDV規格の1080i方式で撮影する。

DV(DV)

DV規格で撮影する。

ご注意

- 撮影中の画像をi.LINK出力するときは、[i.LINK DV変換](65ページ)もあわせて設定してください。

ビデオ HDV/DV

再生するときの信号を選びます。通常は[オート]に設定してください。
i.LINKケーブル接続時はi HDV/DV端子(i.LINK)から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。

▶ **オート**

テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生する。
i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号に切り換えて、i HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。

HDV(HDV1080i)

テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生する。

i.LINK接続時はHDV規格の信号のみをi HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続する。

DV(DV)

テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はDV規格の信号のみをi HDV/DV端子(i.LINK)から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続する。

ご注意
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- [オート]を選ぶと、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- [i.LINK DV変換]が[入]になっているときは、次の信号が出力されます。
  - [オート]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。
  - [HDV]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。
  - [DV]のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

DV 録画モード DV

[録画フォーマット]が[DV]のときに選択できます。

▶SP(SP)

テープへSP(標準)モードで録画する。

LP(LP)

テープへSPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画する。

ご注意
- LPモードで録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。
- HDV規格で録画するときは、LPモードに切換えられません。

DV ワイド記録 DV

つなぐテレビの画像の比率に合った画像サイズで撮影できます。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▶入

ワイド(16:9)テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

切(4:3)

4:3テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

ご注意
- 再生時に接続するテレビに合わせて[TVタイプ]を正しく設定してください(66ページ)。
- HDV規格で録画する場合は、画像サイズは16:9に固定され、4:3にできません。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビとつなぐときに選びます。

D1

D1/D2端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

▶D3

D3/D4/D5端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

i.LINK DV 変換

HDV規格の信号をDV規格に変換してi HDV/DV端子(i.LINK)から出力します。

▶切

[録画フォーマット]と[ビデオ HDV/DV]の設定に従って、i HDV/DV端子(i.LINK)から信号を出力する。

メニューで設定を変更する

次のページへつづく➡

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(入出力/録画設定)を選択すると表示されます。

入

HDV/DV端子(i.LINK)から出力される信号は、HDV規格の場合はDV変換され、DV規格の場合はそのままDV規格で出力する。

ご注意
- i.LINK入力については、[ビデオ HDV/DV]をご覧ください(64ページ)。
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

TV タイプ

テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。撮影した画像は下記のように再生されます。

▶16:9

ワイドテレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**

4:3

4:3テレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**

ご注意
- i.LINKの出力には無効です。
- ID-1対応テレビやテレビのS(S1、S2)映像入力端子につないで再生する場合、[TVタイプ]を[16:9]に設定してください。テレビが自動的に再生画像の比率に切り換わります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

(メモリー設定)メニュー

"メモリースティック　デュオ"に関する設定(画質/全消去など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(メモリー設定)を選択すると表示されます。

画質

▶ファイン(FINE)

高画質で記録する。

スタンダード(STD)

標準の画質で記録する。

"メモリースティック　デュオ"の容量(MB)と撮影可能枚数(枚)

	1.2M 1440×810 1.2M	0.9M 1080×810 0.9M	VGA 640×480 VGA	0.2M 640×360 0.2M
16MB	25	34	96	115
	60	80	240	240
32MB	51	69	190	240
	120	160	485	485
64MB	100	135	390	490
	240	325	980	980
128MB	205	280	780	980
	490	650	1970	1970
256MB	370	500	1400	1750
	890	1150	3550	3550
512MB	760	1000	2850	3600
	1800	2400	7200	7200
1GB	1550	2100	5900	7300
	3650	4900	14500	14500
2GB	3150	4300	12000	15000
	7500	10000	30000	30000
4GB	6300	8500	23500	29500
	14500	19500	59000	59000

上段は画質が[ファイン]のとき
下段は画質が[スタンダード]のとき

* 撮影時：画像サイズは撮影画像が HDV 規格、または DV 規格(16:9)のときは 1.2M、DV 規格(4:3)のときは 0.9M に固定されます。
再生時：再生画像が HDV 規格のときは 1.2M、DV 規格(16:9)のときは 0.2M、DV 規格(4:3)のときは VGA(0.3M)に固定されます。

ご注意
- ソニー製"メモリースティック　デュオ"使用時。枚数は、撮影環境によって変わります。

画像1枚のおよその容量(kB)

1.2M	0.9M	VGA	0.2M
600	450	150	130
260	190	60	60

上段は画質が[ファイン]のとき
下段は画質が[スタンダード]のとき

全消去

プロテクトのかかっていない"メモリースティック　デュオ"内または選択フォルダ内の全画像を消します。

① [全ファイル]か[フォルダ内]を選ぶ。
[全ファイル]："メモリースティック　デュオ"内のすべての画像を消去。
[フォルダ内]：選択しているフォルダ内のすべての画像を消去。

② 選択／押 決定ダイヤルで[はい]→[はい]を選ぶ。
「全消去中です」と表示される。プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

ご注意
- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック　デュオ"は、誤消去防止を解除する(102ページ)。
- 全消去しても、フォルダは消去されません。
- [全消去中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック　デュオ"の取り出し

フォーマット

"メモリースティック　デュオ"はお買い上げ時にフォーマット済みのため、フォーマットする必要はありません。
フォーマットを実行するには[はい]→[はい]の順に選ぶ。

ご注意
- [フォーマット中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – 電源スイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック　デュオ"の取り出し
- 新しく作成したフォルダやプロテクトのかかっている画像もすべて消去されます。

ファイルナンバー

▶連番
"メモリースティック　デュオ"を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされる。

リセット
"メモリースティック　デュオ"ごとに、ファイル番号を0001から付ける。

メニューで設定を変更する

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(メモリー設定)を選択すると表示されます。

フォルダ作成

[はい]を選ぶと"メモリースティック デュオ"内に、新フォルダ(102MSDCF〜999MSDCFまで)を作成できます。1つのフォルダが9,999枚になると、自動的に新フォルダを作成します。

ご注意
- 1度作成した新フォルダは、本機で削除できません。"メモリースティック　デュオ"をフォーマットするか(67ページ)、パソコンなどで削除してください。
- フォルダが増えると、"メモリースティック デュオ"の残量が減ることもあります。

記録フォルダ選択

選択/[押] 決定ダイヤルで記録するフォルダを選んで選択/[押] 決定ダイヤルを押す。

ちょっと一言
- お買い上げ時の設定では、ファイルは「101MSDCF」に記録されます。
- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。

再生フォルダ選択

選択/[押] 決定ダイヤルで再生するフォルダを選んで選択/[押] 決定ダイヤルを押す。

(その他)メニュー

テープ撮影時の設定や、各種基本設定(USB機能選択/クイック録画/操作音)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は52ページをご覧ください。

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(その他)を選択すると表示されます。

カメラプロファイル

カメラの設定内容をカメラプロファイルとして本機内に2つまで保存できます。保存した設定を使って適切なセットアップ状態をすばやく再現できます。

ちょっと一言
- カメラプロファイルで保存される項目はメニュー、ピクチャープロファイル、ボタンなどの設定値です。これらの設定値をまとめてカメラプロファイルに保存します。

■ カメラプロファイルを保存する

① 選択/[押] 決定ダイヤルで[保存]を選ぶ。
② 選択/[押] 決定ダイヤルで、[新規保存]、または既存のプロファイル名を選ぶ。
③ 選択/[押] 決定ダイヤルで、確認画面で[はい]を選ぶ。

カメラプロファイルが保存されます。

ちょっと一言
- [新規保存]した場合は、プロファイル名は[CAM1]または[CAM2]になります。
- 既存のカメラプロファイルを保存先に選んだ場合は上書き保存されます。

■ プロファイル名を変える

保存したカメラプロファイルの名前を変えられます。

① 選択/[押] 決定ダイヤルで[プロファイル名]を選ぶ。
② 選択/[押] 決定ダイヤルで名前を変えるカメラプロファイルを選ぶ。
プロファイル名画面になる。
③ 選択/[押] 決定ダイヤルで名前を入力する。

ちょっと一言

- 名前の入力方法はピクチャープロファイルの名前の設定方法と同じです（37ページ）。

④ 選択/押 決定ダイヤルで[決定]を選び、押して決定する。
プロファイル名が変更されます。

■ カメラプロファイルを読み込む

カメラプロファイルを読み込んで、設定を実行します。

① 選択/押 決定ダイヤルで[読み込み]を選ぶ。

② 選択/押 決定ダイヤルで読み込むカメラプロファイルを選ぶ。

③ 確認画面で[はい]を選択する。
いったん本機が再起動して、選択したカメラプロファイルが反映される。

■ カメラプロファイルを削除する

① 選択/押 決定ダイヤルで[削除]を選ぶ。

② 選択/押 決定ダイヤルで削除するカメラプロファイルを選ぶ。

③ 確認画面で[はい]を選択する。

ユーザー設定ボタン登録

38ページをご覧ください。

フォト/拡大フォーカス

フォト/拡大フォーカスボタンに割り当てる機能を選びます。

▶フォト

静止画を記録します（26ページ）。

拡大フォーカス

拡大フォーカスボタン（30ページ）と同じ機能のボタンになります。

ご注意

- [拡大フォーカス]を選択した場合、静止画の記録は本体のボタンでは出来なくなります。リモコンのフォトボタンをご使用ください。

日時あわせ

22ページをご覧ください。

時差補正

海外で使うときは、選択/押 決定ダイヤルで時差を設定し、現地時刻に合わせる。時差を0に設定すると元の設定に戻ります。

USB 機能選択

USBケーブルで本機とパソコンをつないで、"メモリースティック　デュオ"やパソコンの画像を見たり（80ページ）、PictBridge対応のプリンターと接続する（78ページ）ときに使います。

▶パソコン接続メモリースティック

"メモリースティック　デュオ"に記録した画像をパソコンで見たり、パソコンに取り込むときに選択します。

PictBridge プリント

本機とPictBridge対応のプリンターを直接つないで、プリントするときに選択します（78ページ）。

再生ズーム

[入]に設定すると、再生中の動画を約1.1～5倍（静止画は約1.5～5倍）の範囲で拡大表示できます（お買い上げ時の設定は[切]）。倍率はズームレバーで調節します。終了するには、ズームレバーをW側にする。

ちょっと一言

- 再生ズーム中に、選択/押 決定ダイヤルを押してから回すと、左右にズーム位置を変更できます。選択/押 決定ダイヤルをもう一度押してから回すと、上下にズーム位置を変更できます。

メニューボタンを押す→選択/[押] 決定ダイヤルで、(その他)を選択すると表示されます。

クイック録画 HDV1080i

[入]に設定すると、電源スイッチが「切(充電)」の状態から録画を再開するときに、撮影開始までの時間を少し短縮することができます。

▶切

撮影開始までの時間は少しかかるが、つなぎめがきれいに撮れる。

入(Q.REC)

電源スイッチが「切(充電)」の状態からの撮影開始時間を短縮できる。録画チャンスを逃したくないときに選ぶ。

ちょっと一言

- [入]にすると、場面と場面の間が一瞬止まります。(パソコンでの編集をおすすめします。)
- 撮影スタンバイの状態が約3分以上続くと、自動的にドラムの回転が止まり、スタンバイ状態が解除されます。これはテープを保護し、バッテリーの消耗を防ぐためです。録画を再開するには、もう1度録画スタート/ストップボタンを押してください。

操作音

▶入

撮影スタート/ストップ時の操作時などにメロディが鳴る。

切

操作音を出さない。

録画ランプ

[切]に設定すると、本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しないようにできます(お買い上げ時の設定は[入])。

リモコン

お買い上げ時の設定は[入]のため、付属のワイヤレスリモコン(119ページ)が使えます。

ちょっと一言

- [切]に設定すると、他機のリモコンによる誤動作を防げます。

他のビデオ、DVD/HDDレコーダーにダビングする

電源は、別売りのACアダプターを使ってコンセントからとってください（16ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

ビデオ、DVD/HDD機器の種類や接続する端子によって、接続方法や取り込まれる画質が異なります。

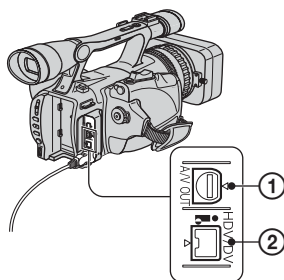
*1 DV規格で撮影した画像は、どの接続でもSD（標準）画質でダビングされます。
*2 モノラル（ひとつの音声入力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）を音声入力へつないでください。

ご注意

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

次のページへつづく→

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

i.LINKケーブル（別売り）でつなぐときは

ダビングされる画像の規格（HDVまたはDV）は、撮影した画像や相手機器が対応している規格によって異なります。下記の表でダビングしたい規格を選び、必要なメニュー設定を行ってください。

ご注意

- メニュー設定を変える前に、i.LINKケーブルを抜いてください。つないでから設定を変えると、ビデオ/DVD機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

ちょっと一言

- 本機のi.LINK端子は４ピンです。接続する機器側の端子は、接続する機器に合わせてください。

ダビングしたい規格	本機で撮影した画像の規格	相手機器の対応規格		メニュー設定	
		HDV規格*1	DV規格	[ビデオ HDV/DV]（64ページ）	[i.LINK DV変換]（65ページ）
HDV画像をHDVでダビング	HDV	HDV	–*3	[オート]	[切]
HDV画像をDVに変換してダビング	HDV	DV	DV	[オート]	[入]
DV画像をDVでダビング	DV	DV	DV	[オート]	[切]
HDV規格とDV規格が混在したテープのときは					
HDV、DVどちらもDVに変換してダビング	HDV/DV	DV	DV	[オート]	[入]
HDV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	HDV	–*3	[HDV]	[切]
	DV	–*2	–*3		
DV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	–*2	–*2	[DV]	[切]
	DV	DV	DV		

*1 HDV1080i方式に対応している機器です。
*2 無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。
*3 画像を認識できません（無記録状態になります）。

ご注意

- [ビデオ HDV/DV]が[オート]のときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- 録画側にHDR-FX7を使用する場合は、[ビデオHDV/DV]を[オート]にしてください(64ページ)。
- 再生側と録画側の両方にHDR-FX7などのHDV1080i方式対応機器を使用して、i.LINKケーブルで接続したときは、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
- AV接続ケーブルでつなぐときは、[画面表示出力]を[パネル](お買い上げ時の設定)にしてください(64ページ)。

S(S1、S2)端子つきのAV接続ケーブル(別売り)でつなぐときは

映像プラグ(黄色)のかわりにS(S1、S2)映像端子を接続してください。AV接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

ダビングする

1 本機(再生側)の準備をする。

撮影済みのカセットを入れる。
電源スイッチを「ビデオ」にする。

再生機器(テレビなど)に合わせて、[TVタイプ]を設定してください(66ページ)。

2 ビデオ(録画側)の準備をする。

ビデオは録画用カセット、DVDレコーダーは録画用DVDを入れる。

入力切り換えスイッチがある場合は「入力」(ビデオ1、ビデオ2入力など)にする。

3 本機とビデオ/DVD機器などをつなぐ。

接続について詳しくは、71ページをご覧ください。

4 本機で再生を始め、ビデオ/DVD機器などで録画する。

詳しくは、ビデオ/DVD機器などの取扱説明書をご覧ください。

5 ダビングが終わったら、ビデオ/DVD機器の録画を停止し、本機の再生を停止する。

ご注意

- i HDV/DV端子(i.LINK)接続では、次のものは録画されません。
  - 画面表示
  - 他機で付けたタイトル
- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像は i HDV/DV端子(i.LINK)から出力されません。
- i.LINKケーブル接続時は、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - ご使用する機器やアプリケーションなどによっては日時やカメラデータが表示、記録されないことがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブルで接続してダビングするとき、DVDレコーダー側から本機の操作が可能と説明されている機器でも操作ができない場合があります。DVDレコーダーの入力モードを「HDV」または「DV」に切り換えるなどして映像の入出力が可能なときは、「ダビングする」の手順でダビングしてください。

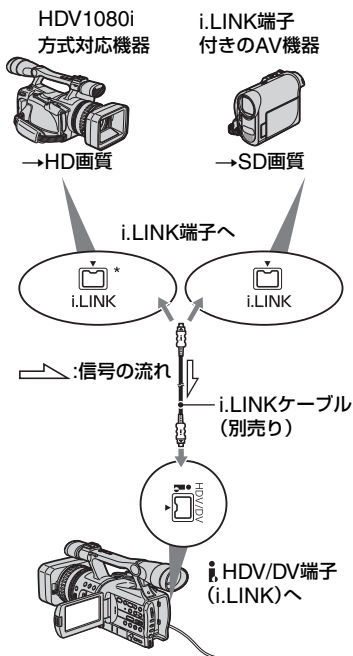
ちょっと一言

- AV接続ケーブルでつないで日時やカメラデータなどをダビングしたいときは、それらを表示させてください。
- ソニー製DVDレコーダーとのi.LINKケーブル接続について詳しくは、下記のURLをご覧ください（2006年12月現在）。
http://www.sony.jp/products/i-link/
- i.LINKケーブル接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。
- i.LINKケーブル接続時は、出力される信号の規格（HDVOUT i.LINK またはDVOUT i.LINK ）が本機の液晶画面に表示されます。

ビデオの画像を本機で録画する i.LINK

ビデオの画像を本機のテープや“メモリースティック　デュオ”に録画できます。
“メモリースティック　デュオ”には静止画として記録できます。
HDV1080i方式対応機器をつなぐと、ＨＤＶ規格のまま録画できます。
あらかじめ、本機に録画用テープまたは“メモリースティック　デュオ”を入れておいてください。本機とビデオをi.LINKケーブルでつなぎます。本機の電源は、別売りのACアダプターを使ってコンセントからとってください（16ページ）。また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- この操作にはi.LINKケーブルが必要です。
- AV接続ケーブルでこの操作はできません。
- 本機のi.LINK端子は4ピンです。接続するビデオ機器の端子は、接続する機器に合わせて選んでください。

* HDV1080i 方式の i.LINK 端子が必要です。

動画を録画する

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 本機の入力信号を設定する。

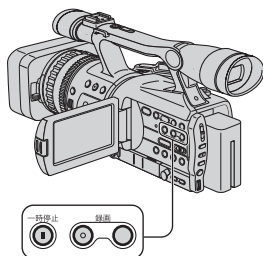
HDV対応機器から録画するときには[ビデオ HDV/DV]を[オート]にする。DV対応機器から録画するときには[ビデオ HDV/DV]を[DV]または[オート]にする(64ページ)。

3 ビデオを再生機としてつなぐ。

i.LINKケーブル接続時は、入力される信号の規格(HDVIN i.LINK またはDVIN i.LINK)が本機の液晶画面に表示されます。(再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません。)

4 ビデオにダビングするカセットを入れる。

5 本機を録画一時停止にする。

❚❚(一時停止)ボタンを押したまま、●(録画)ボタンを2つ同時に押す。

6 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

7 録画を開始したい画面でもう一度❚❚(一時停止)ボタンを押して、録画を始める。

8 ■(停止)ボタンを押して、録画を止める。

ダビングや編集をする

次のページへつづく➡

ご注意

- テレビ放送などの番組を HDV/DV端子（i.LINK）から録画することはできません。
- DV機器から画像を録画するとき、HDV規格で録画することはできません。
- 接続時は、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
  - 録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。

ちょっと一言

- 4：3の映像信号を入力すると、本機の画面には左右が黒く表示されます。

静止画を記録する

あらかじめ、本機に"メモリースティック　デュオ"を入れておいてください（23ページ）。
また、［フォト/拡大フォーカス］を［フォト］（お買い上げ時の設定）に設定してください（69ページ）。

1 「動画を録画する」の手順1～4を行う。

2 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の液晶画面に映ります。

3 記録したい場面でフォト/拡大フォーカスボタンを押す。

ご注意

- 記録元の動画がHDV規格のとき、画像サイズは1.2Mになります。再生している画像がDV規格でワイド（16:9）のとき、画像サイズは0.2Mに、4：3のときはVGA（0.3M）になります（66ページ）。

テープに録画した動画を"メモリースティック　デュオ"に静止画として記録する

静止画を"メモリースティック　デュオ"に記録できます。あらかじめ録画済みのテープと"メモリースティック　デュオ"を入れておいてください。
また、[フォト/拡大フォーカス]を[フォト](お買い上げ時の設定)に設定してください(69ページ)。

1 **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

2 **場面を探して、取り込む。**

►(再生)を押してテープを再生し、取り込む場面でフォト/拡大フォーカスボタンを押す。

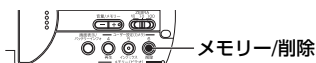
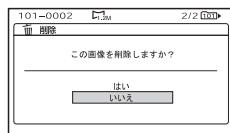
ご注意

- テープに記録された日時と"メモリースティック デュオ"に取り込んだときの日時が記録されます。本機ではテープに記録されたときの日時が表示されます。テープに記録されたカメラデータは記録できません。
- 再生している画像がHDV規格のとき、画像サイズは1.2Mになります。再生している画像がDV規格でワイド(16:9)のとき、画像サイズは0.2Mに、4:3のときはVGA(0.3M)になります(66ページ)。
- [再生ズーム]を使用中は、記録できません(69ページ)。

"メモリースティック デュオ"の画像を消す

1 **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

2 **消去したい画像を再生する。(28ページ)**

3 **メモリー/削除ボタンを押す。**

「削除しますか？」と表示される。

4 **選択/押 決定ボタンで、[はい]を選び、押して決定する。**

画像が消去される。

ご注意

- いったん削除した画像は元に戻せません。

ご注意

- "メモリースティック　デュオ"が誤消去防止になっているとき(102ページ)やプロテクトされている画像(88ページ)は削除できません。

ちょっと一言

- インデックス表示している画像を消すには、メモリー+/−ボタンで▶マークを削除したい画像に移動してから手順3と4を行ってください。
- すべての画像を消去するには、メニューの[全消去](67ページ)で削除します。

撮影した静止画を印刷する（PictBridge 対応プリンター）

PictBridge対応のプリンターを使えば、本機で撮影した静止画をパソコン無しで印刷できます。

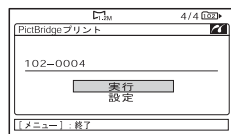
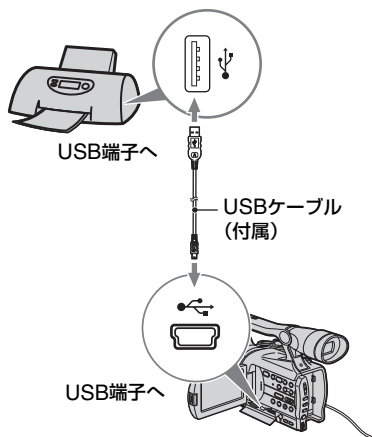
PictBridge

本機と別売りのACアダプターを使って、電源はコンセントから取ってください。あらかじめ、本機に静止画を記録した"メモリースティック　デュオ"を本機に入れて、プリンターの電源を入れてください。

本機とプリンターを接続する

1 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 メニューボタンを押し、選択/押 決定ダイヤルで（その他）メニューで→［USB機能選択］→［PictBridgeプリント］の順に選ぶ。

3 USBケーブルで本機の（USB）端子とプリンターをつなぐ

"メモリースティック　デュオ"に記録されている画像が表示される。

印刷する

1 音量/メモリーボタンの－/＋を押して印刷する画像を選ぶ。

2 必要な場合は印刷部数を設定する。

印刷部数を設定しない場合は手順３に進む（印刷部数は１部に自動設定されます）。

① 選択/押 決定ダイヤルで［設定］→［印刷部数］を選ぶ。

② 選択/押 決定ダイヤルをまわして印刷部数を設定し、押して決定する。

③ 選択/[押] 決定ダイヤルをまわして[↩ 戻る]を選び、押して決定する。PictBridge 実行/設定画面に戻る。

ちょっと一言
- 印刷部数は最大20枚まで設定できます。

3 日時を入れて印刷する場合は以下の設定をする。

日時を入れない場合は手順4に進む。

① 選択/[押] 決定ダイヤルで[設定]→[日時/時刻]→[年月日]または[日時分]を選ぶ。

② 選択/[押] 決定ダイヤルをまわして[↩ 戻る]を選び、押して決定する。
PictBridge実行/設定画面に戻る。

4 選択/[押] 決定ダイヤルで[実行]→[はい]の順に選ぶ。

印刷が完了すると[プリント中です]の表示が消え、画像選択画面に戻る。

印刷終了後、メニューボタンを押す。

ご注意
- PictBridge規格未対応機器との接続は動作保証いたしません。
- プリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プリンターと接続中(画面に が表示中)に次の操作をすると、正常な処理が行われません。
  - 電源スイッチを切り換える。
  - プリンターからUSBケーブルを抜く。
  - 本機から"メモリースティック　デュオ"を抜く。
- プリンターが動作しなくなった場合は、USBケーブルを抜いてプリンターの電源を入れ直してから、操作をやり直してください。
- プリンターによっては、画像の上下左右が切れる場合があります。特に画像がワイド(16:9)のときは、左右が大きく切れる場合があります。
- プリンターによっては、日時印刷に対応していないものがあります。プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機以外の機器で撮影した画像の印刷に関しては保証いたしません。

ちょっと一言
- PictBridge(ピクトブリッジ)とは、カメラ映像機器工業会(CIPA)で制定された統一規格のことです。メーカーや機種に関係なく、ビデオカメラやデジタルスチルカメラを直接プリンターに接続し、パソコンを使わずに画像を印刷できます。

パソコンと接続する

本機とパソコンを接続して、次の操作を行うことができます。

“メモリースティック　デュオ”の静止画を取り込む
→80ページ

テープの動画をHDV規格で取り込む
→83ページ

テープの動画をDV規格で取り込む
→83ページ

接続について

本機とパソコンをつなぐには、次の2つの方法があります。

－USBケーブルでつなぐ

“メモリースティック　デュオ”の画像を取り込むとき

－i.LINKケーブルでつなぐ

テープの画像を取り込むとき

パソコン接続時のご注意

- USBケーブルやi.LINKケーブルなどで本機とパソコンを接続する場合、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- 次の操作はできません。
  – USBケーブルで接続してテープの画像をパソコンに取り込む。
  – i.LINKケーブルで接続して“メモリースティック　デュオ”の画像をパソコンに取り込む。
- USBケーブルをパソコンから外すときは、正しい手順で操作してください（82ページ）。

静止画をパソコンに取り込む

パソコン環境について

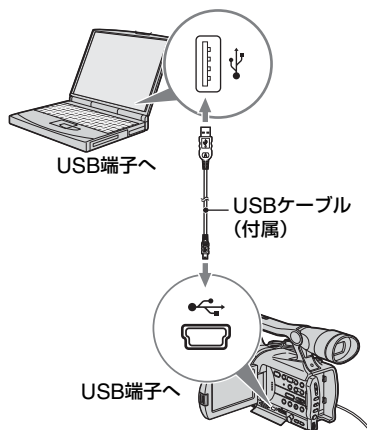
Windowsをお使いの場合

- 対応OS：Windows 2000 Professional/Windows Millennium Edition/Windows XP Home Edition/Windows XP Professional/Windows Vista*
  * 64bit版は除きます。
  上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。上記のOS内でもアップグレードした場合やマルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- CPU：MMX Pentium 200MHz以上
- その他必要な装置：USB端子標準装備

Macintoshをお使いの場合

- 対応OS：Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X（v10.1/v10.2/v10.3/v10.4）
- その他必要な装置：USB端子標準装備

操作1：USBケーブルでつなぐ

- パソコンの標準ドライバで動作するので、ソフトウェアのインストールは不要です。
- パソコンにメモリースティック　スロットがある場合は、画像を保存した"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプター（別売り）に入れてから、パソコンのメモリースティック　スロットに差し込んで画像を取り込むこともできます。
- "メモリースティック PRO デュオ"をお使いの際にパソコンが"メモリースティック PRO デュオ"に対応していない場合は、パソコンのメモリースティック　スロットを使用せずに本機をUSBケーブルでつないでください。

- この段階では、まだ本機とパソコンをつながないでください。
- 本機の電源を入れる前に、本機とパソコンをUSBケーブルでつなぐと、本機がパソコンに認識されない場合があります。
- 推奨するつなぎかたについては83ページをご覧ください。

1 パソコンの電源を入れる。

使用中のアプリケーションは、終了させておいてください。

Windows 2000/ Windows XP/ Windows Vistaをお使いの場合
Administrator権限･コンピューターの管理者でログオンしてください。

2 本機に"メモリースティック デュオ"を入れる。

3 本機の電源を準備する。

電源は、別売りのACアダプターを使ってコンセントからとってください（16ページ）。

4 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

5 メニューボタンを押す。
メニューインデックス画面が表示される。

6 選択/押 決定ダイヤルで (その他)→[USB機能選択][パソコン接続メモリースティック]の順に選ぶ（69ページ）。

7 USBケーブルで本機のψ（USB）端子とパソコンをつなぐ。

初回はパソコンが本機を認識するのに時間がかかることがあります。

パソコンとつなぐ

操作2:画像を取り込む

Windowsパソコンのとき

[マイコンピュータ]内に表示される[リムーバブルディスク]アイコンをダブルクリックし、フォルダ内の画像をパソコンのハードディスクへコピーする。

1 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した静止画が入っているフォルダ(再生のみ可能)

2 本機の画像フォルダ(新しくフォルダを作成していない場合は[101MSDCF]のみ)

3 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した動画が入っているフォルダ(再生のみ可能)

フォルダ名	ファイル名	意味
101MSDCF	DSC0□□	静止画
(~999MSDCF)	□□.JPG	ファイル

ファイル名の□□□□には、0001~9999までの数字が入ります。

Macintoshのとき

ドライブアイコンをダブルクリックし、取り込みたい画像ファイルをパソコンのハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。

USBケーブルを外す

Windowsパソコンのとき

本機の液晶画面に[USB接続中]と表示されたときは、次のようにUSBケーブルを外してください。

① 画面右下にあるタスクトレイの中の、[ハードウェアの安全な取り外し]アイコンをクリックする。

② [USB 大容量記憶装置デバイス－ドライブを安全に取り外します(停止します)]をクリックする。

③ [OK]をクリックする。

④ 本機とパソコンから USB ケーブルを外す。

本機の液晶画面に[USB接続中]と表示されていないときは、手順④のみ行ってください。

ご注意

- 正しい手順でUSBケーブルを外さないと、"メモリースティック　デュオ"内のファイルが正常に更新されない場合があります。また"メモリースティック　デュオ"の故障の原因になります。

Macintoshのとき

① 使用中のアプリケーションを終了させる。
② パソコンの画面にあるドライブアイコンを[ゴミ箱]にドラッグ＆ドロップする。
③ 本機とパソコンから USB ケーブルを外す。

ご注意
- Mac OS Xをお使いの場合は、パソコンの電源を切ってから、USBケーブルを外し、本機から“メモリースティック　デュオ”を取り出してください。
- 本機のアクセスランプが点灯中はUSBケーブルを抜かないでください。
- 本機の電源を切るときは、本機からUSBケーブルを外してから切ってください。

推奨するつなぎかた

本機を正しく動作させるためには、次のようにつないでください。

- パソコンのUSB端子に、USBケーブルで本機をつなぎ、他のUSB端子には何もつながない。
- USBキーボードとマウスが標準でついているパソコンの場合、キーボードをUSB端子につないだ状態で、本機をUSBケーブルで別のUSB端子につなぐ。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器をつないだ場合の動作は保証していません。
- USBケーブルは、必ずパソコンのUSB端子につないでください。キーボードやUSBハブなどを経由してつないでいる場合の動作は保証していません。
- パソコンのUSB端子にUSBケーブルがつながれていることを確認してください。
- 推奨環境のすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

テープの動画をパソコンに取り込む

i.LINKケーブルで本機とパソコンをつなぎ、編集ソフト（別売り）を使って動画を取り込むことができます。
お手持ちのパソコンにi.LINK端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトウェアがインストールされている必要があります。

編集ソフトウェアについては下記のURLをご覧下さい。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ちょっと一言
- Macintoshについての情報も、上記サポートホームページをご参照ください。

撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格（HDVまたはDV）によって、必要なソフトウェアが次の通り異なります。

撮影画像の規格	パソコンに取り込む規格	必要なソフトウェア
HDV	HDV	HDV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
HDV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
DV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト

ご注意
- USBケーブルを使って動画を取り込むことはできません。
- 画像の取り込み方法について詳しくは、ソフトウェアの説明書をご覧ください。
- パソコンの推奨環境については、お使いになるソフトウェアの説明書をご覧ください。
- 使用するパソコンのソフトウェアによっては、正しく働かない場合があります。
- DV規格→HDV規格に変換はできません。

次のページへつづく➡

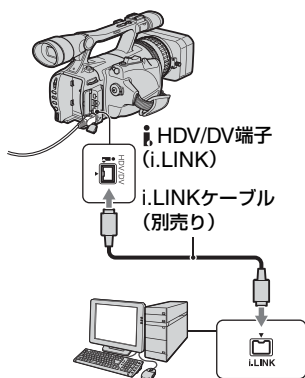
撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格（HDV規格またはDV規格）によって、必要なメニュー設定が異なります。

撮影画像の規格	パソコンに取り込む規格	メニュー設定*
HDV	HDV	[ビデオ HDV/DV] →[HDV] [i.LINK DV変換] →[切]
HDV	DV	[ビデオ HDV/DV] →[HDV] [i.LINK DV変換] →[入]
DV	DV	[ビデオ HDV/DV] →[DV] [i.LINK DV変換] →[切]

* メニュー設定については、52 ページをご覧ください。

ちょっと一言

- HDV規格の画像をそのまま取り込むには、HDV規格に対応した環境が必要になります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書、もしくはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- 一般的なDVDプレーヤーで再生できるようにするためには、SD画質でDVDビデオを作成する必要があります。この場合、作成されたDVDはHDV規格ではありません。

操作:1　i.LINKケーブルにつなぐ

パソコン接続時のご注意

- i.LINKケーブルは先にパソコンとつないでから、本機とつないでください。先に本機とつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- 次の場合、パソコンが本機を正しく認識できなかったり、パソコンがハングアップしたりすることがあります。
  – 本機の画面上に表示されている規格（HDVまたはDV）の信号が扱えないパソコンに入出力する。
  – i.LINKケーブル接続中に、[ビデオ HDV/DV]（64ページ）と[i.LINK DV変換]（65ページ）の設定を変える。
  – 電源スイッチが「カメラ」でi.LINKケーブル接続中に、[録画フォーマット]（64ページ）の設定を変える。
  – i.LINKケーブル接続中に、本機の電源スイッチを切り換える。
- i.LINKケーブル接続時は、本機の画面に入出力信号の規格（HDVまたはDV）が表示されます。

操作:2　動画を取り込む

本機の電源は別売りのACアダプターを使ってください（15ページ）。

① 編集ソフトウェア（編集ソフトウェアは付属していません）を用意する。

② パソコンの電源を入れる。

③ 本機にテープを入れ、電源スイッチを「ビデオ」にする。

④ 本機のメニューを設定する。
撮影画像や取り込まれる規格によってメニュー設定が異なります（52 ページ）。

⑤ パソコンのソフトウェアを操作して動画を取り込む。

ご注意

- HDV規格に取り込みをおこなっても認識しない場合は編集ソフトウェアがHDV規格に対応していない可能性がありますので手順4でDV規格へ変換して取り込みを行ってください。
- DV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むことはできません。

ちょっと一言

- ソフトウェアの仕様や特徴、最新情報に関しては、各社の公式サイト等をご確認ください。
- HDV規格で記録した画像データをパソコンに取り込んだ際のファイルの容量は、映像圧縮方式をMPEG2のまま変換せずに取り込んだ場合、10分の映像で、約2GBです。（DVファイルとほぼ同じです。）

パソコンから本機にHDV規格で取り込むには

［ビデオ HDV/DV］を［HDV］に、［i.LINK DV変換］を［切］にする（64、65ページ）。

ご注意

- パソコンで編集したHDV規格の映像を、テープへHDV規格で書き戻すには、お使いの編集ソフトウェアがHDV規格映像のテープへの書き出しに対応していれば可能です。詳しくは各ソフトウェアメーカーへお問い合わせください。

パソコンから本機にDV規格で取り込むには

［ビデオ HDV/DV］を［DV］にする（84ページ）。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源/画面/リモコンについて

電源が入らない、途中で切れる。

- 充電されたバッテリーを取り付ける（15ページ）。
- ACアダプター/チャージャーをコンセントに差し込む（15ページ）。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源（バッテリーまたはACアダプターの電源コード）を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。
- RESET（リセット）ボタン（118ページ）を先のとがったもので押す。

本体があたたかくなる。

- 本機使用中に本体があたたかくなることがありますが、故障ではありません。

バッテリーの充電中、充電ランプが点灯しない。

- ACアダプター/チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」にする（16ページ）。
- 電源スイッチを「切（充電）」にする（15ページ）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（15ページ）。
- コンセントにプラグを正しく差し込む。
- すでに充電が完了している（15ページ）。

バッテリーの充電中、充電ランプが点滅する。

- バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎると、充電できないことがあります（17ページ）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（15ページ）。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、ソニーの相談窓口に問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（15、104ページ）。
- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。液晶画面を開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（15、104ページ）。

液晶画面に画像が残る。

- 電源を入れた状態でバッテリーを外したり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度調整つまみを画像がはっきり見えるように動かす（20ページ）。

ファインダーの画像が消えている。

- [VF点灯モード]を[オート]にしていると、液晶パネルを開いている間はファインダーは消灯します（63ページ）。

付属のワイヤレスリモコンが操作できない。

- [リモコン]を[入]にする（70ページ）。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがある。
- 電池を交換する。電池の＋極と－極を正しく入れる（119ページ）。

リモコン操作中にほかのビデオが誤動作する。

- ビデオのリモコンスイッチをVTR2以外のモードに切り換える。
- 黒い紙でビデオのリモコン受光部をふさぐ。

カセット/"メモリースティック　デュオ"について

カセットが取り出せない。

- 電源（バッテリーやACアダプター）が正しく接続されているか確認する（15ページ）。
- 本機が結露しかけている（106ページ）。

カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。

- 本機は、カセットメモリーに対応していないため、表示されません。

テープ残量表示が出ない。

- 常に表示させたいときは、[ᴏᴏ 残量表示］を［入］にする（63ページ）。

テープの巻き戻し、早送り時の音が大きい。

- ACアダプター使用時は、バッテリー使用時より高速になるため音が大きくなります。故障ではありません。

メモリースティック　デュオ"の画像消去、フォーマットができない。

- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック　デュオ"は、誤消去防止を解除する（102ページ）。
- プロテクトが設定されている。パソコンなどでプロテクトを解除する。

撮影について

スタート/ストップボタンを押しても、撮影が始まらない。

- 電源スイッチを「カメラ」にする（25ページ）。
- テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。
- カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる（100ページ）。
- 結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してから入れ直す（106ページ）。

ハンドルズームが働かない。

- ハンドルズーム切換スイッチを「H」または「L」にする（29ページ）

“メモリースティック　デュオ”に撮影できない。

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（102ページ）。
- メモリー容量いっぱいの場合は、不要な画像を消す（77ページ）。
- 本機で“メモリースティック　デュオ”をフォーマットし直すか（67ページ）、別の“メモリースティック　デュオ”を入れる（23ページ）。
- 次の設定のときは“メモリースティック　デュオ”に静止画を記録できません。
  – ［フェーダー］実行中。
  – ［なめらかスロー録画］
  – シャッタースピードが1/60より遅い設定のとき。
  – ショットトランジション確認/実行時。
- ［フォト/拡大フォーカス］を［フォト］に設定する（69ページ）。

テープできれいにつなぎ撮りできない。

- エンドサーチする（40ページ）。
- カセットを取り出さない（電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます）。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させない。
- 同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。DV
- LPモードでつなぎ撮りしない。DV
- ［クイック録画］が［入］のときは、きれいにつなぎ撮りできません（70ページ）。HDV1080i

静止画撮影時にシャッター音が出ない。

- ［操作音］を［入］にする（70ページ）
- 動画撮影中はシャッター音は出ません。

エンドサーチができない。

- 撮影後にカセットを取り出さない（40ページ）。
- カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1回も撮影していない。
- テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

オートフォーカスができない。

- フォーカスボタンを押して自動調節にする（29ページ）。
- オートフォーカスが働きにくい状況のときは、手動でピントを合わせる（29ページ）。

メニュー項目が灰色で表示され、選択できない。

- その撮影/再生条件では選択できません。
- 機能によっては、一緒に使えないものがあります。下表は、同時に設定できない機能やメニュー項目の例です。

使えない機能	以下のとき
[逆光補正]	[カメラ明るさ]がマニュアル設定、アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち２つ以上が手動設定
[スポットライト]	[カメラ明るさ]がマニュアル設定、アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち２つ以上が手動設定
[コントラストエンハンサー]	逆光補正中
[デジタルエクステンダー]	なめらかスロー録画中
[AEシフト]	[カメラ明るさ]がマニュアル設定、アイリス、ゲイン、シャッタースピードがすべて手動設定
[ヒストグラム]	カラーバー表示中
[なめらかスロー録画]	カラーバー表示中、ショットトランジション中

シャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランスが手動調節できない。

- オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。

画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。

- シャッタースピード（33ページ）が遅いときに出る現象で、故障ではありません。

画面をすばやく横切る被写体が曲がって見える。

- フォーカルプレーンと呼ばれる現象で、故障ではありません。撮像素子（CMOSセンサー）の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、画面をすばやく横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

画面が白すぎて画像が見えない。

- 逆光補正を解除する（58ページ）。

画面が暗すぎて画像が見えない。

- 画面表示/バッテリーインフォボタンを数秒間押したままにして、バックライトを点灯する（20ページ）。

横帯が現れる。

- 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯など放電管による照明下ではこのような症状が現れることがありますが、故障ではありません。シャッタースピードを変えることで改善することがあります（33ページ）。

テレビやパソコンの画面を撮影すると黒い帯が出る。

- シャッタースピードを変えることで改善することがあります（33ページ）。

細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。

- ［シャープネス］で「0」側に調整する（36ページ）。

再生について

「カセット/”メモリースティック　デュオ”について」（88ページ）もご覧ください。

テープ再生ができない。

- 電源スイッチを「ビデオ」にする。
- テープを巻き戻す（27ページ）。

“メモリースティック　デュオ”の画像データが正しく再生できない。

- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります（ファイル名が点滅）。故障ではありません（103ページ）。
- 他機で撮影した画像は、正しく再生できないことがあります。故障ではありません。

データファイル名が正しくない、または点滅している。

- ファイルが壊れている。
- 本機で対応しているファイル形式を使う（102ページ）。
- ディレクトリー構造が規格に準拠しないと、ファイル名のみ表示されることがあります。

画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（106ページ）。

他機で4CHマイク記録した音声が聞こえない。DV

- ［DV 音声ミックス］を設定する（60ページ）。

音声が小さい。または聞こえない。

- 音量を大きくする（28ページ）。
- ［バイリンガル］を［切］にする（60ページ）。
- ［DV 音声ミックス］を設定する（60ページ）。
- なめらかスロー録画で記録した箇所には音声が記録されません。

画像や音声が途切れる。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

次のページへつづく➡

画像が一瞬静止画になる、音声が途切れる。

- テープやビデオヘッドに付着物があるときに起こる症状です（106ページ）。
- ソニー製のミニDVカセットを使用する。

[– – –]が表示される。

- 日付時刻を設定しないで録画したテープを再生している。
- テープの無記録部分を再生している。
- テープに傷やノイズがあると、日時やカメラデータを読めません。

ノイズが現れ、画面上にPALまたは50iと表示される。

- テープに記録されているTVカラーシステムがPALなど、本機のカラーシステム（NTSC）と違うため（99ページ）。故障ではありません。

日付サーチが正しく操作できない。

- 日付を変更したときは、2分以上撮影する。撮影時間が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの始めや途中に無記録部分があると、日付サーチが正しく働かないことがあります。

エンドサーチ、レックレビューのときに画像が出ない。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

他機でアフレコした音声が聞こえない。DV

- [DV 音声ミックス]を[ST1]（オリジナルテープ音声）側から最適な音声になるまで調節する（60ページ）。

画面上に♪4ch-12bが表示される。

- 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。

テレビ接続について

i.LINKケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続するテレビのi.LINK端子がHDV1080i方式に対応していない場合は、HD（ハイビジョン）画質で見ることはできません（46ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDV規格で撮影した映像をダウンコンバートしてDV（SD画質）で再生する（65ページ）。
- 他の接続ケーブルで接続して再生する（46ページ）。

S映像プラグ、またはD端子コンポーネントビデオケーブルでつないで再生するとき、音声が出ない。

- S映像プラグまたはD端子コンポーネントビデオケーブルだけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（46ページ）。

D端子コンポーネントビデオケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続する機器に合わせて[コンポーネント出力]を正しく設定する（65ページ）。
- D端子コンポーネントビデオケーブルだけでつないでいるため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグも合わせてつなぐ（46ページ）。

HDMIケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像（83ページ）を出力することはできません。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、HDMIケーブルを抜き差しするか本機の電源を入れ直す。

4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。

- ワイド（16:9）で撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、[TVタイプ]を設定して再生する（66ページ）。

4:3テレビにつないで再生したら上下に黒い帯が入る。

- ワイド（16:9）で撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で故障ではありません。

ダビング、編集、外部機器接続について

つないだ機器（外部入力）の映像が拡大できない。

- 外部入力している画像は本機でズームできません。

つないだ機器の画面にタイムコードなどが表示される。

- AV接続ケーブルを使って接続するときは、メニューの[画面表示出力]を[パネル]にする（64ページ）。

AV接続ケーブルを使ってダビングができない。

- AV接続ケーブルが正しくつながれていない。
  AV接続ケーブルが他機の入力端子へつながれているか確認する。

ダビング編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない。

- 接続する機器に合わせて[ビデオ HDV/DV]を正しく設定する（64ページ）。

次のページへつづく➡

追加録音（アフレコ）できない。

- 本機ではアフレコすることはできません。

HDMIケーブルを使ってダビングができない。

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

テープから“メモリースティック　デュオ”へ静止画を取り込めない。

- 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープは、録画できなかったり、乱れた画像が記録されたりすることがあります。

i.LINKケーブルを使ってワイド（16:9）で撮影した映像をダビングすると画面が縦に伸びる。

- i.LINKケーブルからアスペクト比の設定は出力できません。テレビ側で設定する。
- A/V接続ケーブルを使って接続する。

パソコンとの接続について

本機がパソコンに認識されない。USB i.LINK

- パソコンと本機からケーブルを抜き、もう1度しっかりと差し込む。
- キーボード、マウス以外で、パソコンの ψ（USB）端子につながれている他の機器を取り外す。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう1度パソコンと本機をつなぐ。

テープの動画がパソコンで見られない、取り込めない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう1度つなぐ。
- 動画はUSBケーブルでは取り込めないため、i.LINKケーブルでつなぐ。
- テープの動画をパソコンに取り込むには編集ソフトウェア（別売り）が必要です（83ページ）。以下のホームページもご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/cam/support/

“メモリースティック　デュオ”の画像がパソコンで見られない、取り込めない。USB

- “メモリースティック　デュオ”の向きを確かめて、本機に奥までしっかりと入れる。
- i.LINKケーブルでは取り込めないため、USBケーブルでつなぐ。
- 本機の電源スイッチを「ビデオ」にして［USB機能選択］を［パソコン接続メモリースティック］にする（69ページ）。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると“メモリースティック　デュオ”はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、もう1度パソコンとつなぐ。
- キーボード、マウス、本機以外で、パソコンの ψ（USB）端子につながれている他の機器を取り外す。

パソコンがハングアップする

- 接続する機器に合わせて、[ビデオ HDV/DV]を正しく設定する(64ページ)。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動してから正しい手順でもう1度パソコンと本機をつなぐ(80ページ)。

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate」を使ってDV規格の画像の編集をしようとすると、本機を認識しない。DV

- 「DVgate/DVgate Motion/DVgate Still」のバージョンが
  DVgate Ver.2.2.00/01
  DVgate Ver.2.1.xx
  DVgate Ver.2.0.xx
  DVgate Motion Ver.1.4.xx/DVgate Still Ver.1.2.xx
  に該当する場合は、本機との接続について詳しくは、下記のホームページをご覧ください。
  ハンディカムホームページ「サポート＆修理」
  http://www.sony.co.jp/cam/support/

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズにインストールされているソフトウェア「DVgate Plus Ver.1.3」を使ってHDV規格で撮影した画像の編集ができない。HDV1080i

- 「DVgate Plus Ver.1.3.XX」を「DVgate Plus Ver.2.0」にアップグレードする必要があります。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
  http://vcl.vaio.sony.co.jp/

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示/警告表示

液晶画面またはファインダーに、次のように表示されます。
お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

C:（またはE:）□□:□□（自己診断表示）

C:04:□□

- “インフォリチウム”以外のバッテリーが使われている。必ず“インフォリチウム”バッテリーを使う（104ページ）。
- ACアダプターのDCプラグを本機のDC IN端子にしっかりつなぐ（15ページ）。

C:06:□□

- バッテリーが高温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

C:21:□□

- 結露している。カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す（106ページ）。

C:22:□□

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（106ページ）。

C:31:□□/C:32:□□

- 上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう1度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（106ページ）。
- 電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう1度操作し直す。
- カセットを交換する。RESET（リセット）ボタン（118ページ）を押してからもう1度操作し直す。

E:61:□□/E:62:□□/E:92:□□

- 修理が必要なため、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご連絡いただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

101-1001（ファイル関連の警告）

- ファイルが壊れている。
- 扱えないファイル（103ページ）。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがある。

（結露の警告）*

- カセットを取り出し、電源を外して、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（106ページ）。

（“メモリースティック デュオ”関連の警告）

- “メモリースティック デュオ”が入っていない（23ページ）。

（“メモリースティック デュオ”フォーマット関連の警告）*

- “メモリースティック デュオ”が壊れている。
- “メモリースティック デュオ”が正しくフォーマットされていない（67、102ページ）。

（非対応“メモリースティック デュオ”関連の警告）*

- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”を入れた（102ページ）。

(バッテリーの温度に関する警告)

- バッテリーが高温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

(バッテリーの温度に関する警告)

- バッテリーが低温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを暖かいところに置く。

(テープ関連の警告)

遅い点滅

- テープ残量が5分を切った。
- カセットが入っていない。*
- カセットが誤消去防止状態になっている(100ページ)。*

速い点滅

- テープが終わっている。*

≜(テープを取り出す必要がある警告)*

遅い点滅

- カセットが誤消去防止状態になっている(100ページ)。

速い点滅

- 結露している(106ページ)。
- 自己診断表示が表示されている(96ページ)。

(“メモリースティック デュオ”誤消去防止に関する警告)*

- “メモリースティック デュオ”が誤消去防止状態になっている(102ページ)。

* 警告表示が出るときに、「操作音」が鳴ります(96 ページ)。

お知らせメッセージの説明

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

■ バッテリー/電源

“インフォリチウム”バッテリーを使ってください(104ページ)

■ 結露

≜結露しています
カセットを取り出してください
(106ページ)

結露しています
約1時間放置してください(106ページ)

■ カセット/テープ

≜カセットを入れなおしてください(23ページ)

- テープの損傷などがないかも確認する。

≜カセットの誤消去防止ツマミを確認してください(100ページ)

コピープロテクトされています　記録できません　(100ページ)

■ “メモリースティック　デュオ”

非対応のメモリースティックです

- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”が入っている(102ページ)。

プロテクトされています　削除できません

- パソコンなどでプロテクトを解除する。

メモリースティックを入れなおしてください(23、102ページ)

- "メモリースティック　デュオ"を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは"メモリースティック　デュオ"が壊れている可能性があるので交換する。

このメモリースティックはフォーマットが違います

- "メモリースティック　デュオ"のフォーマットを確認し、必要ならばフォーマットする(67、102ページ)。

メモリースティックのフォルダがいっぱいです

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダ消去はできません。
- フォーマットするか(67ページ)、パソコンで不要なフォルダを消去する。

メモリースティックに静止画記録できない状態です

- 以下のときは静止画記録できません。
  - シャッタースピードが1/60以下のとき
  - フェーダー中
  - なめらかスロー録画中
  - ショットトランジション確認、実行中

■ PictBridge対応プリンター

接続先を確認してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう1度つなぐ。

異常が確認されました　中止してください

- プリンターの電源を入れなおし、USBケーブルをいったん抜いてからもう一度つなぐ。

■ その他

非対応のフォーマットです

- 対応していないフォーマットのため、再生できません。

この"ビデオ HDV/DV"設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください。

- 再生や信号入力を停止するか、[ビデオHDV/DV]設定を変更してください(64ページ)。

ヘッドが汚れています　クリーニングカセットを使ってください
(106ページ)

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
別売りのACアダプター/チャージャーAC-VQ850（ACCKIT-D10に付属）は、全世界の電源（AC100V～240V、50Hz/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには、HDV1080i方式対応のテレビ（またはモニター）とコンポーネントケーブル、AV接続ケーブルが必要です。
HDV1080i方式に対応している主な国、地域は、「テレビ方式がNTSCの国、地域」を参照してください。

DV規格で記録した再生画像をDV規格で見るには DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード･トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

時差補正機能ついて

海外で使うとき、[時差補正]で、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（69ページ）。

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。本機は、ミニDVカセットのみ使えます。

Mini DV マーク付きカセットをご使用ください。

本機ではソニー製ミニDVカセットを使用することをおすすめします。

本機は、カセットメモリー非対応です。

HDV規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション(HD)映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。

本機では、有効走査線数1,080本のインターレース方式(1080i、画素数1,440×1,080ドット)を採用しています。

記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクレコーダーなどで採用されているMPEG2方式です。

再生について

DV規格とHDV規格の1080i方式の両方を再生できます。

本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子(i HDV/DV端子)から出力することはできません。

無記録部分を作らないために

テープを再生したときは、次の撮影の前にエンドサーチ(40ページ)を行って撮影終了位置に戻します。

著作権保護信号について

■ 再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

■ 記録するとき

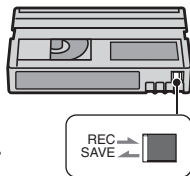
著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに[コピープロテクトされています　記録できません]が表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

取り扱い上のご注意

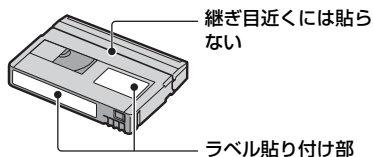
■ 長い間使わないときは

本機からカセットを取り出して保管してください。

■ 間違って消さないために

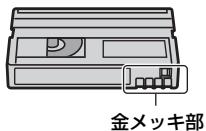
カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。

REC：録画できる。
SAVE：録画できない。
(誤消去防止状態)

■ ラベルは指定の位置に

カセットにラベルは、指定の位置に正しく貼ってください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。

■ カセットの使用後は

必ずテープを巻き戻してください(画像や音声が乱れる原因となります)。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

■ 金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。
カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”（“Memory Stick”）は小さくて軽い大容量のIC記録メディアです。
本機は、標準の“メモリースティック”の約半分の大きさの“メモリースティック デュオ”のみ使えます。ただし、すべての“メモリースティック デュオ”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録/再生
メモリースティック（マジックゲート非対応）	–
メモリースティック デュオ*1（マジックゲート非対応）	○
マジックゲート メモリースティック	–
メモリースティック デュオ*1（マジックゲート対応）	○*2*3
マジックゲート メモリースティック デュオ*1	○*3
メモリースティック PRO	–
メモリースティック PRO デュオ*1	○*2*3

*1 標準の約半分大のサイズです。

*2 高速データ転送に対応した“メモリースティック”です。転送速度はお使いになる機器により異なります。

*3 “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能を使ったデータは記録/再生できません。

- 静止画の圧縮形式：本機は、撮影した静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- 静止画の画像のデータファイル名：
  – 本機の画面表示：101-0001
  – パソコンの画面表示：DSC00001.JPG
- パソコン（Windows OS/Mac OS）でフォーマット（初期化）した“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの“メモリースティック”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

誤消去防止スイッチ付き“メモリースティック デュオ”では

先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にすると、記録されているデータを誤って消去しないようにできます。

取り扱い上のご注意

次の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。

- 画像ファイルを読み込み中や、“メモリースティック デュオ”にデータを書き込み中（アクセスランプが点灯中および点滅中）に、“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。

■ 取り扱いについて

次のことを守ってください。

- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック デュオ”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込む恐れがあります。
- "メモリースティック　デュオ"スロットには、"メモリースティック　デュオ"以外は入れないでください。故障の原因となります。

■ 使用場所について

次の場所での使用や保管は避けてください。

- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

■ メモリースティック　デュオ　アダプターの使用について

"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ アダプターに挿入すると、標準の"メモリースティック"対応機器でもご使用になれます。

- "メモリースティック　デュオ"を"メモリースティック"対応機器でお使いの場合は、必ず"メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れてからお使いください。
- "メモリースティック　デュオ"をメモリースティック　デュオ　アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認の上、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。また、逆向きで無理に入れると、メモリースティック　デュオ　アダプターが破損し故障の原因となります。
- メモリースティック　デュオ　アダプターに"メモリースティック　デュオ"が装着されない状態で、"メモリースティック"対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

■ "メモリースティック　PRO　デュオ"についてのご注意

- 本機で動作確認されている"メモリースティック　PRO　デュオ"は4GBまでです。
- 本機はパラレルインターフェースを利用した高速データ通信には対応していません。
- 使用可能な"メモリースティック　デュオ"の最新情報についてはホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください（裏表紙）。

画像の互換性について

- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した"メモリースティック　デュオ"が本機で使えないときは、67ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）をしてください。フォーマットすると"メモリースティック　デュオ"に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  - パソコンで加工した画像データ
  - 他機で撮影した画像データ

"メモリースティック　デュオ"を廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、"メモリースティック　デュオ"内のデータは完全には消去されないことがあります。廃棄/譲渡の際は、"メモリースティック　デュオ"本体を物理的に破壊するか、市販のパソコンによるデータ消去専用ソフトなどを使って"メモリースティック　デュオ"内のデータを完全に消去することをおすすめします。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

本機は“インフォリチウム”バッテリー(Lシリーズ)のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。“インフォリチウム”バッテリーLシリーズには InfoLITHIUM L マークがついています。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

“インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
別売りのACアダプター/チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の範囲で、充電ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取り外してください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、次のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  - 高容量バッテリー「NP-F770/F970(別売り)」を使う。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。高容量バッテリー「NP-F770/F970(別売り)」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影や再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り外して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください(19ページ)。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK(アイリンク)について

本機のHDV/DV端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意
- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、次の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps とは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については72ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パーソナルコンピューターVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMV、HDVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

ご注意
- i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINK接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。
- i.LINKケーブルはソニー製i.LINKケーブルをお使いください。なお純正品以外のケーブルによるi.LINK端子の破損、故障、損害については弊社では責任を負いかねます。またこの場合の弊社製品の修理につきましては保証期間内でも有償修理とさせていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製i.LINKケーブルを使ってください。
4ピン←→4ピン（HDV/DVダビング時）

取り扱い上のご注意とお手入れ

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温、低温または多湿になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面やファインダー、レンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  液晶画面やファインダー内部を傷めます。

■ 長時間使用しないときは

- 3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。
- バッテリーは使い切ってから、保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、[結露 していますカセットを取り出してください]または[結露しています 約1時間放置してください]と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

■ 結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、開く/カセット取出しつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押してもや▲が点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。
カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

■ 結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

■ 結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドについて

HDV規格で記録したテープを再生すると、まれに再生中の画像と音声が一瞬（約0.5秒）停止することがあります。
テープやビデオヘッドに付着物があるなどしてHDV規格の信号をテープに正しく記録、再生できなかったときに起こる現象で、カセットによってはごくまれに、新品またはご利用期間が短いにもかかわらず発生することがあります。
再生時に起きたときは、テープを少し送って巻き戻すと問題なく見ることができる場合がありますが、記録時に起きたときは、その部分を修復することはできません。

このような事態を予防するためにもソニー製ミニDVカセットのご使用をおすすめします。

- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットを10秒間再生してビデオヘッドをきれいにしてください。
  – 再生画面の一部が動かない。
  – 再生画像が出ない。
  – 音声が途切れる。
  – 録画中に[⊗ ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください]が表示される。
  – HDV規格のときに以下の現象が起こる。

再生画像が一時停止する　再生画像が消える（青1色の画面）

  – DV規格のときに以下の現象が起こる。

四角いノイズが出る。

再生画像が消える（青1色の画面）

- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

■ お手入れ

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などで拭いてください。別売りの液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、次のことは避けてください。
  – シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類。
  – 上記が手に付いたまま本機を扱う。
  – ゴムやビニール製品との長時間接触。

レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機がACアダプター/チャージャーでコンセントにつながっているか、バッテリーが入っている

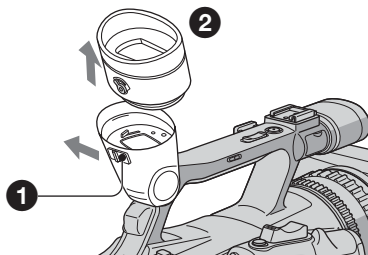
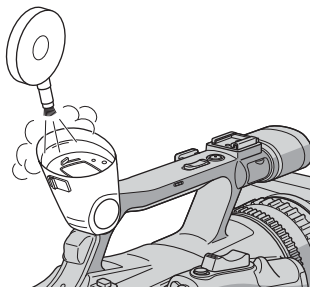
次のページへつづく➡

限り常に充電されています。ACアダプター/チャージャーで電源につながない、またはバッテリーを入れないままで**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。
ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

■ **充電方法**
本機を別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切(充電)」にして24時間以上放置する。

ファインダーのお手入れについて

1 接眼部をはずす。

❶ビューファインダー取りはずしつまみを横にずらしたまま、❷接眼部を外す。

2 接眼部の内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。

3 手順1の逆の手順で接眼部を取り付ける。

主な仕様

システム

録画方式（HDV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式（DV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式	Exif Ver.2.2*[1]
録音方式（HDV）	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット Fs48kHz（ステレオ） 転送レート 384kbps
録音方式（DV）	回転ヘッド、PCMシステム 12ビット Fs32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット Fs48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式 1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度（HDV）	約18.812mm/秒
テープ速度（DV）	SP：約18.812mm/秒 LP：約12.555mm/秒
録画/再生時間（HDV）	60分（DVM60使用時）
録画/再生時間（DV）	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時： 約2分40秒（DVM60使用時） ACアダプター使用時： 約1分45秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	4.5mm（1/4型）3CMOSセンサー 総画素数：約112万画素 静止画記録画素数：最大120万画素相当*[2]（1440×810）（HDV/DV 16：9記録時） 動画時有効画素数（4：3モード）：約78万画素 動画時有効画素数（16：9モード）：約104万画素 静止画時有効画素数（4：3モード）：約78万画素 静止画時有効画素数（16：9モード）：約104万画素
ズームレンズ	カール ツァイス　バリオゾナーT＊ 20倍（光学）、約30倍（デジタル、デジタルエクステンダー[入]時） f=3.9～78mm 35mmカメラ換算 37.4～748mm（16:9モード） （4:3モードでは45.7～914mm） F1.6～2.8 フィルター径62mm
色温度切り換え	［屋内］（3 200K）、 ［屋外］（5 800K）
最低被写体照度	8 lx（ルクス）（F1.6）

*[1] （社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

*[2] ソニー独自のクリアビッドCMOSセンサーの画素配列と画像処理システムエンハンスドイメージングプロセッサーにより、静止画は表記の記載サイズを実現しています。

出力端子

A/V OUT端子	10ピン特殊コネクター 映像：1 Vp-p、75Ω Y出力　1Vp-p、75Ω C出力　0.286Vp-p（バースト）、75Ω 音声：327mV（47kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2 kΩ以下
COMPONENT OUT端子	D1/D3映像：コンポーネントビデオ端子 Y：1Vp-p、75Ω PB/PR. CB/CR：±350mV、75Ω
HDMI OUT端子	HDMIコネクタ

入/出力端子

LANC端子	ステレオミニミニジャック（ø 2.5）
USB端子	mini-B
HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394　4ピンコネクター　S100）

その他

次のページへつづく➡

液晶画面

画面サイズ	8.8cm（3.5型、アスペクト比16:9）
総ドット数	211 200ドット 横960×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	ファインダー使用時、明るさ標準： HDV記録時 5.9W DV記録時 5.7W 液晶画面使用時、明るさ標準： HDV記録時 5.9W DV記録時 5.7W
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	145×156×322mm （最大突起部含む）（幅×高さ×奥行き） 145×156×322mm （最大突起部含む、バッテリーパックNP-F570装着状態）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約1.4kg（本体のみ）
撮影時総質量	約1.6kg（バッテリーNP-F570、テープ、レンズカバー付きフード含む。）
付属品	13ページをご覧ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルHDビデオカメラレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

■ 調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

■ それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

■ 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■ 部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

■ 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

分解禁止

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り外してください。ACアダプターや充電器などもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

禁止

指定以外の電池、ACアダプター、充電器を使わない

火災やけがの原因となることがあります。

禁止

機器本体や付属品、記録メディアは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

フラッシュ、ビデオライトご使用上の注意

- 点灯したまま放置しない。
- 使用中に紙や布などの燃えやすいものを近づけない。
- ビデオライトの点灯中及び消灯直後のランプに触らない。
- 指定以外のランプを使用しない。火災ややけどの原因になります。
- 可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュまたは、ビデオライトを使用しない。

禁止

フラッシュ、ビデオライトなどの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、AV接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、充電器、充電中のバッテリーや製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから外したり、電池を本体から外して保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

禁止

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

指示

電池や“メモリースティック”などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間続けて聞かない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与える事があります。呼びかけられたら返事が出来るくらいの音量で聞きましょう。

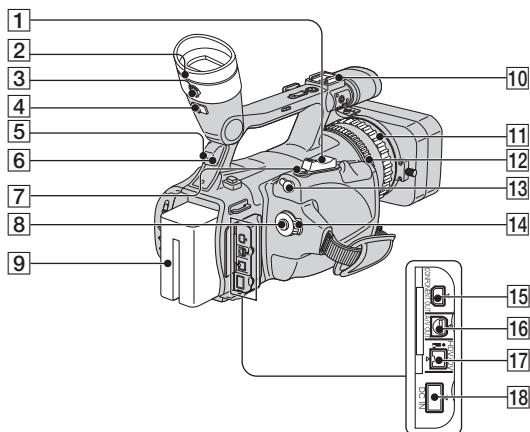
⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災**などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	●バッテリーパックは指定された充電器以外で充電しない。 ●電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 ●電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 ●電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 ●電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。	 禁止
	●電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。 ●バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。 ●ボタン電池は充電しないでください。	 禁止
	●電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取りはずしておく。	 指示

お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったこれらの電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。 Li-ion リチウムイオン電池 **充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店については** 一般社団法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

各部のなまえ

（　）内は参照ページです。

1 ズームレバー（29）

2 ファインダー（20）

3 視度調整つまみ（20）

4 ビューファインダー取りはずしつまみ（108）

5 リモコン受光部（後部）（119）

6 録画ランプ（後部）（25）

テープやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

7 フォト / 拡大フォーカスボタン（26）

8 録画スタート/ストップボタン（25）

9 バッテリーパック（15）

10 アクセサリーシュー

11 フォーカスリング（29）

12 ズームリング（29）

13 LANC 端子

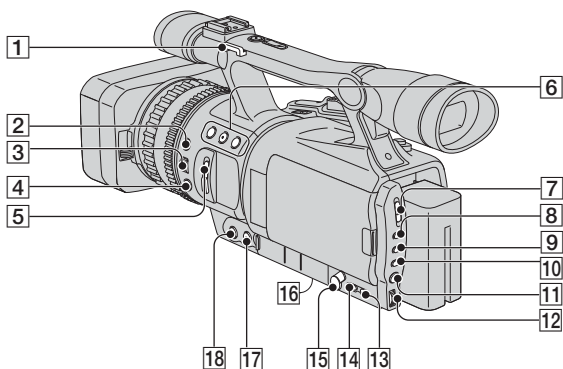
LANC端子は、ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

14 電源スイッチ（19）

15 COMPONENT OUT 端子（47）

16 A/V OUT 端子（47）

17 i HDV/DV 端子（47）

18 DC IN 端子（16）

1 ショルダーストラップ取り付け部（117）

2 明るさ / アイリスボタン（32）

3 明るさ / アイリスダイヤル（31）

4 押フォーカス自動ボタン（30）

5 ＮＤフィルタースイッチ（1/2/切）（32）

6 ユーザー設定ボタン 1 ～ 3*（38）

7 オートロックスイッチ（32）

8 ゲインボタン（33）

9 シャッタースピードボタン *（33）

10 ホワイトバランスボタン（34）

11 メニューボタン（52）

12 選択 / 押 決定ダイヤル（27）

13 ステータスチェックボタン（43）

14 ピクチャープロファイルボタン（35）

15 ◯（ヘッドホン）端子

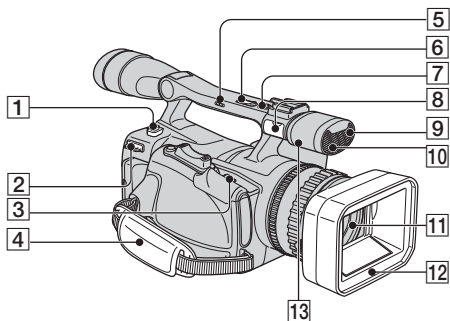
ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

16 三脚用ネジ穴

三脚を使うときは、ネジの長さが5.5mm以下のものを使ってください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷付けることがあります。

17 フォーカスボタン（29）*

18 拡大フォーカスボタン（30）

* ユーザー設定ボタン 2、フォーカスボタン、シャッタースピードボタンに凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

1 バッテリー取り外しボタン（16）

2 ショルダーストラップ取り付け部

3 開く / カセット取り出しつまみ（23）

4 グリップベルト（19）

5 ハンドルズーム切換スイッチ（H/L/OFF）（29）

6 ハンドルズームレバー（29）

7 録画スタート / ストップボタン（25）

8 外部マイク入力端子

外部マイクを接続すると外部マイクが内蔵マイクより優先されます。

9 録画ランプ（前部）（25）

テープやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

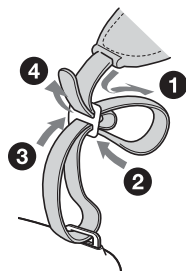
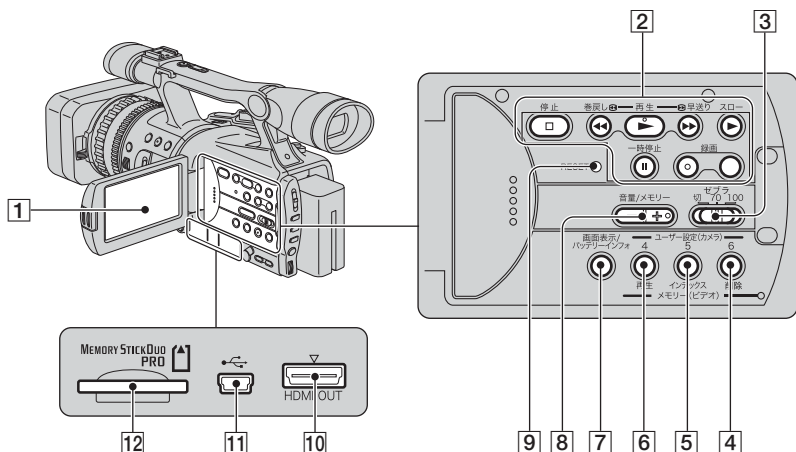
10 リモコン受光部（前部）（119）

11 レンズ（5）

12 レンズカバー付きフード（14）

13 内蔵ステレオマイク

ショルダーストラップ（別売り）を取り付けるには

ショルダーストラップ（別売り）取り付け部に図のように取り付けてください。

1 液晶画面（20）

2 ビデオ操作ボタン（巻き戻し・再生＊・早送り・一時停止・停止・スロー・録画）（27）

3 ゼブラスイッチ（33）

4 ユーザー設定ボタン 6、メモリー/ 削除ボタン（38、77）

5 ユーザー設定ボタン 5、メモリー/ インデックスボタン＊（27、38）

6 ユーザー設定ボタン 4、メモリー/ 再生ボタン（27、38）

7 画面表示 / バッテリーインフォボタン（43）

8 音量 / メモリーボタン＊（28）

9 RESET（リセット）ボタン

RESET（リセット）ボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、ピクチャープロファイルとカメラプロファイルで設定した内容は解除されません。

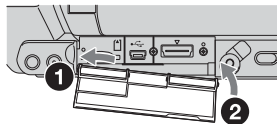
10 HDMI OUT 端子（46）

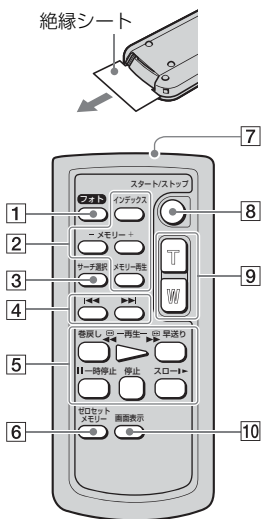
11 USB 端子（78、81）

12 “メモリースティック　デュオ”スロット（23）

＊ 再生ボタン、音量 / メモリーボタン、メモリー/インデックスボタンに凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

端子カバーの取り付けかた

端子カバー取り付け部に図のように取り付けてください。

ワイヤレスリモコン

絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。

1 フォトボタン（26）

押したときの画像が静止画として"メモリースティック　デュオ"に記録されます。

2 メモリー操作ボタン（インデックスボタン、－ / ＋ボタン、メモリー再生ボタン）（27）

3 サーチ選択ボタン（44）

4 ⏮ ⏭ ボタン

5 ビデオ操作ボタン（巻戻し、再生、早送り、一時停止、停止、スロー）（27）

6 ゼロセットメモリーボタン（44）

7 リモコン発光部

8 スタート / ストップボタン（25）

9 ズームボタン（29）

10 画面表示ボタン（44）

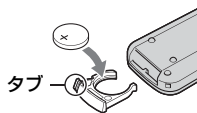
リモコンについてのご注意

- 本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにしてください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、ほかのビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

リモコンの電池を交換するには

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引出す。

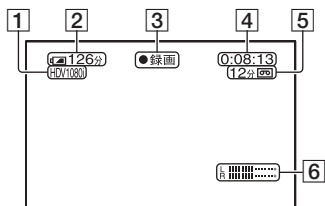
② ＋面を上にして新しい電池を入れる。

③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。

ご注意

- リモコンには、ボタン型リチウム電池（CR2025）が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

ファインダーと液晶画面の表示

( )内は参照ページ。
撮影中の画面表示は録画されません。

動画を撮影中

1 録画フォーマット（HDV1080iまたはDV）（64）

録画フォーマットがDVのときは、録画モード（SPまたはLP）も表示される。

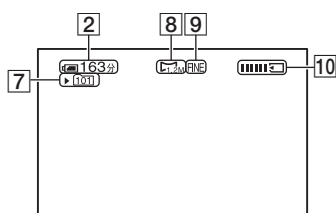
2 バッテリー残量の目安

3 撮影状態（[スタンバイ]/[● 録画]）

4 撮影中：テープカウンター（時：分：秒）
再生中：タイムコード（時：分：秒：フレーム）

5 テープ残量の目安

6 オーディオレベルメーター（62）

静止画を撮影中

7 記録先のフォルダ（68）

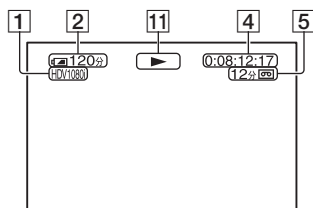
8 画像サイズ（66）

9 画質（[FINE]または[STD]）（66）

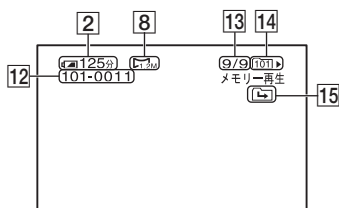
10 静止画記録中（66）

撮影時のデータについて

撮影中の日付時刻と撮影条件を示したカメラデータが自動的に記録されます。
これらのデータは、撮影中には表示されませんが、再生時に[データコード]として確認できます（63ページ）。

動画を再生中

11 テープ走行表示

- 録画モード（SPまたはLP）は、DV規格で記録されたテープを再生するときに表示されます。 DV

静止画を再生中

12 データファイル名

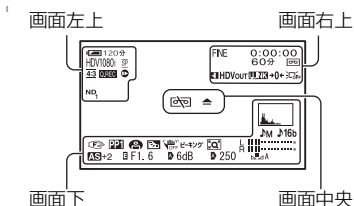
13 再生中の画像番号 / フォルダ内の合計枚数

14 再生フォルダ（68）

15 前後フォルダ表示

“メモリースティック　デュオ”内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初/最後の画像になると、 が表示されます。音量/メモリーボタンでフォルダー移動できます。

各部のなまえ・索引

表示画面の説明

画面左上

表示	意味
HDV1080i DV	録画フォーマット（64）
SP LP	DV録画モード（65）*
4:3	DVワイド記録（65）*
Q.REC	クイック録画（70）**
	DVコマ撮り（58）*
ND1 ND2 NDOFF	NDフィルター（32）

画面右上

表示	意味
FINE STD	画質（66）
	インデックス信号（39）
HDVIN DVIN	HDV入力/DV入力（75）
HDVOUT DVOUT	HDV出力/DV出力（73）
i.LINK	i.LINK接続（48、71）
→0←	ゼロセットメモリー（44）
OFF	液晶バックライト 切（20）

画面中央

表示	意味
	警告（96）

画面下

表示	意味
	ヒストグラム（61）
♪16b	DV音声モード（60）*
♪M	音声録音レベル（60）
	手動フォーカス（29）
PP1～PP6	ピクチャープロファイル（35）
	スポットライト（59）
	逆光補正（58）
OFF	手ぶれ補正（56）
ピーキング	ピーキング（61）
	デジタルエクステンダー（59）
AS	AEシフト（56）
E	明るさ/アイリスダイヤル設定（31）
A	自動設定（62）
A B	ホワイトバランス（34）

* DV規格のときのみ設定できます。
** HDV規格のときのみ設定できます。

ちょっと一言

- 表示内容や位置は目安であり、実際とは異なることがあります。

索引

ア行

カ行

サ行

次のページへつづく➡

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

各部のなまえ・索引

次のページへつづく➡

数字

商標について

- “ハンディカム”、HANDYCAM はソニー株式会社の登録商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、“MEMORY STICK™”、“メモリースティック　デュオ”、“MEMORY STICK DUO”、“メモリースティック PRO　デュオ”、“MEMORY STICK PRO DUO”、“マジックゲート”、“MAGICGATE”、“MagicGate Memory Stick”、“マジックゲート　メモリースティック”、“MagicGate Memory Stick Duo”、“マジックゲート　メモリースティック　デュオ”はソニー株式会社の商標です。
- InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。
- i.LINK、i はソニー株式会社の商標です。
- Mini DV Digital Video Cassette は商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows MediaはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- HDVおよびHDVロゴは、ソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。